

必ずお読みください



VECTORWORKS[®]

A NEMETSCHKE COMPANY

リファレンスガイド

20

22

v

JAPANESE VERSION

CREATED IN PARTNERSHIP WITH A&A CO., LTD.

Vectorworks 2022ネットワーク版

ライセンス管理ソフトウェアの仕組み

Vectorworks 2022ネットワーク版では、サーバー／クライアント形式でライセンスを管理し、Vectorworks製品を使用することができます。サーバーマシン上のライセンス管理ソフトウェアで、同時に使用できるクライアントライセンスの数を管理します。このため、使用するすべてのクライアントマシンにVectorworksネットワーク版をインストールしておき、必要な時だけライセンス管理ソフトウェアからライセンスを取得してVectorworksを起動することができます。また、有効にした場合はライセンスを持ち出すこともできません（教育用バージョンおよび他の一部のケースでは持ち出しが許可されていません）。クライアントでは、Vectorworksプログラムの起動時にクライアントマシン上で許可されたモジュールを選択します。

Vectorworks Site Protection Server（以下、ライセンス管理ソフトウェア）のコアには、米国 Reprise Software, Inc.製のライセンス管理ソフトウェア、Reprise Licence Manager（RLM）を使用しています。管理設定には、タスクバー（Windows）またはメニューバー（Mac）のシステムメニュー、あるいは必要に応じてサーバーのブラウザからアクセスできます。

ライセンス管理ソフトウェアは以下の機能を持ち、個々のVectorworksプログラムの起動やネットワーク全体での使用状況などを管理します。

- クライアントマシンがライセンス管理ソフトウェアに接続した時に、ソフトウェアの起動を承認
- ライセンスプール（ライセンス全体）の管理、ライセンスの持ち出しを有効にした場合はライセンスの持ち出しを許可
- ライセンス利用状況の表示
- ログによるライセンス利用状況・接続情報の出力
- ユーザー権限・ライセンス持ち出し可能モジュール・持ち出し上限などを管理

ライセンス管理者以外のユーザーは、クライアントマシンでVectorworksを起動するに進んで、サイトプロテクション機能を備えたVectorworksプログラムの使用に関する情報を参照してください。

.....

ライセンス管理ソフトウェアをインストールする
クライアントマシンでVectorworksを起動する
ライセンス管理ソフトウェアのシステムメニュー
Vectorworks Site Protection Server
トラブルシューティング

ライセンス管理ソフトウェアをインストールする

インストールと運用には、クライアントマシンとサーバーマシンの両方で管理者 (Administrator) 権限のあるユーザーアカウントが必要です。サーバーとクライアントに同じマシンを使用しないでください。インストーラーには、インストールシステム要件やインストールに関する既知の問題が一覧表示されています。インストールを円滑に行うため、事前にシステム要件を確認してください。

クライアントマシンでは、Vectorworksインストールプログラムを使用して、Vectorworksシリーズ全体のプログラムと、ライセンスおよびサーバーの指示に基づいてアクセスを許可する製品を決定できる機能をインストールします。

サーバーマシンでは、専用のインストールプログラムを使用して、ライセンス管理ソフトウェアに必要なコンポーネントと、 dongleを使用する場合は dongle (プロテクトキー) に必要なドライバーソフトウェアをインストールします。dongleを使用しない場合はアクティベーションキーが必要です。

インストール時、Vectorworks Site Protection Serverセットアップダイアログボックスでサーバーの設定を行います。デフォルトの設定を使用することを推奨します。

➤ クリックすると、パラメータの表示／非表示を切り替えられます。

パラメータ	説明
RLMポート番号	通常は、デフォルトのポート番号5053のままにしておくことを推奨します。
ISVポート番号	通常は空のままにして、次にランダムに開くポート番号を割り当てます。
ISVの遅延起動	ISVサーバーの起動時間を、指定した秒数だけ遅らせます。これにより、IPアドレスを取得してライセンスを確認する時間を確保できるほか、dongleドライバーを参照する時間も確保できます。
インストール後にライセンス管理ソフトウェア実行する (Macのみ)	インストール完了時に、ライセンス管理ソフトウェアを起動します。
アプリケーションをWindowsファイアウォールの例外リストに追加する (Windowsのみ)	ファイアウォールの警告を生成せずに、アプリケーションからポートを通じて情報を送信できるようにすることで、通信エラーを回避します。
Windows起動時に (サービスとして) 自動で起動する ／Mac起動時に (デーモンとして) 自動で起動する	サーバーソフトウェアを自動的に起動し、バックグラウンドプロセスとして実行できるようにします。

<p>シリアル番号自動取得機能を有効にする</p>	<p>Vectorworksクライアントインストーラーのネットワークブロードキャスト機能を使用して、サーバーから自動的にシリアル番号を入手することで、Vectorworksをインストールするたびにシリアル番号を何度も入力する必要がなくなります。VPNやセグメント化されたネットワーク環境によりサーバーの自動検出に問題がある場合も想定し、通常はこのオプションの選択を解除したまま、インストール時にシリアル番号を手入力します。</p>
---------------------------	---

ライセンス情報を入力するか、ライセンスファイルの場所を指定して、インストールを完了します。サーバーを最初にインストールすることも、ライセンス管理ソフトウェアのシステムメニューを通じてライセンス情報を後で指定することもできます。アクティベーションに dongle を使用する場合は、dongle と共に必要なライセンスファイルが提供されます。アクティベーションキーでアクティベーションする場合は、ライセンスファイルが自動的に生成されます。

インストール後、サーバーのタスクバー（Windows）またはメニューバー（Mac）の通知領域に ライセンス管理ソフトウェアのシステムメニューアイコン が表示されます。

このトピックに関する参考ビデオ（英語）を視聴するには、[ここをクリック](#)してください（インターネット接続が必要）。

dongle のドライバーソフトウェアに関する詳細は、[タレスのホームページ](http://cpl.thalesgroup.com/) cpl.thalesgroup.com/ をご確認ください。

システム要件

クライアントマシンについては、Vectorworks 製品の要件を満たすコンピューターにソフトウェアをインストールする必要があります。

サーバーマシンのシステム要件は、クライアントマシンほど厳しくありません。要件：

- Windows 10 / Windows Server 2008 R2 SP1以降、または macOS 10.13以降
- 64ビット Intel Core 2 Duo 以上
- RAM 4GB 以上
- インストールするハードディスクの空き容量 30MB 以上

大文字と小文字を区別するファイルシステムはサポートされていません。

ネットワークプロトコル

ライセンス管理ソフトウェアとクライアントの Vectorworks 製品は、動作環境が異なります。サーバーマシンの IP アドレスは、原則的には固定してください。ただし、同じサブネット内であれば、サーバーマシンの IP アドレスを固定しなくても、IP アドレスの自動検知機能により接続できます。ライセンスの持ち出しを許可する時は、サーバーマシンの固定 IP アドレスを使用してください。サーバーの IP アドレスを自動割り当てにすると、クライアントが持ち出したライセンスを返却できないことがあります。

ファイアウォールアクセスの設定

インターネットアクティベーションを使用するには、URL を `site-activation.vectorworks.net`、接続ポートを80 (http) にします。

高セキュリティ環境（プロキシ設定）

プロキシ設定は、環境変数の `HTTP_PROXY` と `HTTP_PROXY_CREDENTIALS` で制御されます。

例：

```
HTTP_PROXY=myproxyaddress.com
```

```
HTTP_PROXY_CREDENTIALS=username:password
```

Windows では、プロキシ設定は RLM によってオペレーティングシステムから自動検出されま
す。

ライセンス管理ソフトウェアをアンインストールする

ライセンス管理ソフトウェアのシステムメニューで、**Vectorworks Site Protection > アンインストール**を選択します。

インターネットでアクティベートしたライセンスを無効にして別のコンピューターにインストールするか、ライセンスファイル、ログ、および構成設定をすべて削除するかを選択できます。

クライアントマシンでVectorworksを起動する

Vectorworksプログラムを起動すると、ライセンス管理ソフトウェアと通信します。サーバーマシンへのネットワーク接続を確保すると共に、サーバーマシンでサーバーソフトウェアを実行している必要があります。

ソフトウェアライセンスを持ち出している場合、期間内はネットワーク接続は不要です。

Vectorworksプログラムを起動する

1. Vectorworksプログラムを起動します。

ログイン設定ダイアログボックスが開きます。サーバー接続オプションは、システム管理者がすでに設定している場合があります。これらの設定は変更しないでください。

➤ クリックすると、パラメータの表示／非表示を切り替えられます。

パラメータ	説明
接続	

サーバーを自動検出	ライセンス管理ソフトウェアに自動的に接続します。サーバーマシンのポート番号フィールドはグレイアウトされています。VPNやセグメント化されたネットワーク環境によりサーバーの自動検出に問題がある場合も想定し、通常はこのオプションの選択を解除したまま、プライマリサーバーにサーバー情報を入力します。
サーバー設定	サーバー設定ダイアログボックスが開き、サイトプロテクションに利用可能なサーバーを管理できます（以下を参照）。
プライマリサーバー	サーバーを自動検出 にチェックを入れていない場合は、サーバーのIPアドレスとポート番号を入力します。ポート番号は、RLMサーバーのポート番号と同じ番号に設定します。デフォルトは5053です。
モジュール	（Vectorworks製品の）必要なモジュールや使用を許可されているモジュールを選択します。
サードパーティ	サードパーティモジュールダイアログボックスが開き、サードパーティから提供されたモジュール、サーバーのライセンスファイルに存在するモジュール、使用を許可されているモジュールを選択できます。
Spotlightモジュール	Braceworks製品およびConnectCAD製品は、ライセンスに応じて持ち出しが可能な独立したモジュールです。この2つの製品は、Design SuiteとSpotlightのいずれかがメインのVectorworks製品として選択されている場合にのみ選択できます。
持ち出し	許可されている場合は、指定した日数にわたり、その期間はサーバーに接続することなく、選択したモジュールのライセンスを持ち出せます。持ち出し期間の最大日数は通常、30日です。
返却	持ち出したライセンスは期限前に返却できます。 返却 をクリックしてサーバーに接続し、持ち出したライセンスを返却します。 持ち出し期間は自動的に失効します。持ち出したソフトウェアを期限前に返却する場合は、 返却 をクリックするだけで済みます。持ち出し期間が終了すると、クライアントのライセンスは自動的に解放され、ソフトウェアを起動できなくなります。
持ち出しライセンスの有効期限： ___日間	ソフトウェアのライセンスを持ち出す日数を、通常は30日間を上限に入力します。ライセンスは持ち出し期間の最終日の深夜0時に自動的に解放され、ソフトウェアは起動できなくなります。
情報	ソフトウェアのライセンスが持ち出されている間は、持ち出し中のモジュールと残りの持ち出し期間（日数または時間数）が表示されます。
起動時に表示しない	チェックを入れると、起動時にログイン設定ダイアログボックスが表示されなくなります。

2. モジュールリストで、起動したいVectorworks製品を選択します。

モジュールを複数選択することはできません。

モジュールを選択してログインした後は、Vectorworks プログラムを終了して再度ログインしない限り、別のモジュールに変更できません。

ライセンスを持ち出している最中は、モジュールの切り替えは出来ません。持ち出したライセンスを返却してから、モジュールを変更してください。

Vectorworksの実行中に使用できる作業画面は、選択したモジュールによって異なります。

3. **ログイン**をクリックします。Vectorworksアプリケーションが正常にサーバーマシンと通信して、ライセンス管理ソフトウェアが起動を許可すると、Vectorworksプログラムが起動します。

ライセンスを取得できなかった場合には、対象のモジュール名と共にダイアログが表示されます。

Vectorworksアプリケーションの実行中は、Vectorworksの環境設定ダイアログボックスのその他ペインで**ログイン設定**ボタンをクリックして、ログイン設定ダイアログボックスにアクセスできます。現在接続しているサーバーのIPアドレスとポート番号を表示するには、**接続**をクリックします。**起動時に表示しない**を設定しており、ログイン設定ダイアログボックスをもう一度起動時に表示させたい場合も、この操作でログイン設定ダイアログボックスの設定を変更して表示させることができます。

サイトプロテクションサーバー設定

サーバー設定ダイアログボックスには、接続可能なサーバーが一覧表示されます。サーバー接続は通常、システム管理者が設定します。

使用可能なサーバーとポート番号は接続順に一覧表示されます。プライマリサーバーがダウンしているか、モジュールのチェックアウトを許可しない場合は、リスト内の次のサーバーに接続されます。

ライセンス管理ソフトウェアを管理するには：

ログイン設定ダイアログボックスで**サーバー設定**をクリックします。サーバー設定ダイアログボックスが開きます。

➤ クリックすると、パラメータの表示／非表示を切り替えられます。

パラメータ	説明
サーバーのIPアドレスとポート番号	サーバーのIPアドレスとポート番号を指定します。
サーバーリスト	使用可能なサーバーを、優先順位に従って一覧表示します。
追加	現在入力しているサーバー情報を、使用可能なサーバーのリストに追加します。

削除	現在選択しているサーバーを、サーバーリストから削除します。プライマリサーバーは削除できません。
上へ／下へ	選択したサーバーをリスト内で上または下に移動し、リストの優先順位を変更します。

ネットワーク上のサーバーを確認する時間は、LoginDialog.xmlファイルの<AutoFindMaxTime>パラメータで編集できます。デフォルト値は1秒です。

接続エラー

Vectorworksプログラムは、ライセンスが持ち出されていない限り、定期的にライセンス管理ソフトウェアと通信しています。接続は数十秒ごとに検証されます。

一時的なネットワークの問題によってサーバーへの接続が切断されると、ダイアログが表示されます。**再試行**をクリックして再接続を試みてください。再接続されると、作業を続けることができます。再接続できない場合は、**保存して終了**をクリックします。保存されていないすべての作業ファイルが保存され、Vectorworksプログラムが終了します。

予期していなかった接続問題の原因を調査するか、システム管理者に連絡して、サーバー接続の復旧支援を受けてください。管理者は、ライセンス管理ソフトウェアの稼動状況を確認できます。

.....
[Vectorworksライセンスの持ち出しと返却
エラーメッセージ一覧](#)

Vectorworksライセンスの持ち出しと返却

ライセンスの持ち出し

ライセンスの持ち出しを有効にしている場合、持ち出し期間中はネットワークに接続しなくてもVectorworksプログラムを使用できます。出張時など、サーバーに接続できない場合でもVectorworks製品を使用できます。ライセンス管理ソフトウェアは、持ち出したライセンス数と経過した持ち出し時間を管理／記録しています。

クライアントマシンに複数のバージョンのVectorworksプログラムがインストールされている場合は、最新のバージョンのライセンスを持ち出してください。以前のバージョンのライセンスを持ち出した後に、最新のバージョンを持ち出そうとすると、エラーが起こりません。

1. Vectorworksプログラムを起動します。

ログイン設定ダイアログボックスが開き、ライセンスを持ち出せます。

Vectorworksの起動時にログイン設定ウインドウを表示しないよう設定している場合は、Vectorworksの環境設定ダイアログボックスのその他ペインでログイン設定をクリックして、Vectorworksプログラムを再起動します。

2. **持ち出しライセンスの有効期限**：__日間に持ち出したい日数を入力して、**持ち出し**をクリックします。**返却**ボタンが使用できるようになります。

持ち出し期間は最大30日です。

許可されている期間より長くライセンスを持ち出そうとすると、ダイアログが表示されます。持ち出し可能な期間内で設定してください。制限されているモジュールのライセンスを持ち出そうとすると、対象のモジュール名と共にダイアログが表示されます。使用を許可されているモジュールを選択してください。

3. **情報**をクリックして、持ち出しの情報を表示します。

参考に持ち出しの有効期限と残りの期間が表示され、持ち出したモジュールの名前も表示されます。

オペレーティングシステムの地域設定 (Windows) または言語と地域の設定 (Mac) に応じて、日時が表示されます。

ライセンスの返却

設定した期間にわたってライセンスを持ち出す場合、返却する必要はありません。設定した持ち出し日数が経過すると、持ち出したライセンスは自動的に返却されます。ライセンスを期限前に返却するには、Vectorworksプログラムを起動して、ライセンス管理ソフトウェアに接続します。

1. Vectorworksプログラムを起動します。

ログイン設定ダイアログボックスが開き、ライセンスを返却できます。

Vectorworksの起動時にログイン設定ウィンドウを表示しないよう設定している場合は、Vectorworksの環境設定ダイアログボックスのその他ペインでログイン設定をクリックして、Vectorworksプログラムを再起動します。

2. **返却**ボタンをクリックします。

返却が終了します。ダイアログボックスの**返却**ボタンがグレイアウトし、代わりに**持ち出し**ボタンが有効になります。同時に、ライセンス管理ソフトウェア側の利用可能なライセンス数が返却された数だけ増加します。

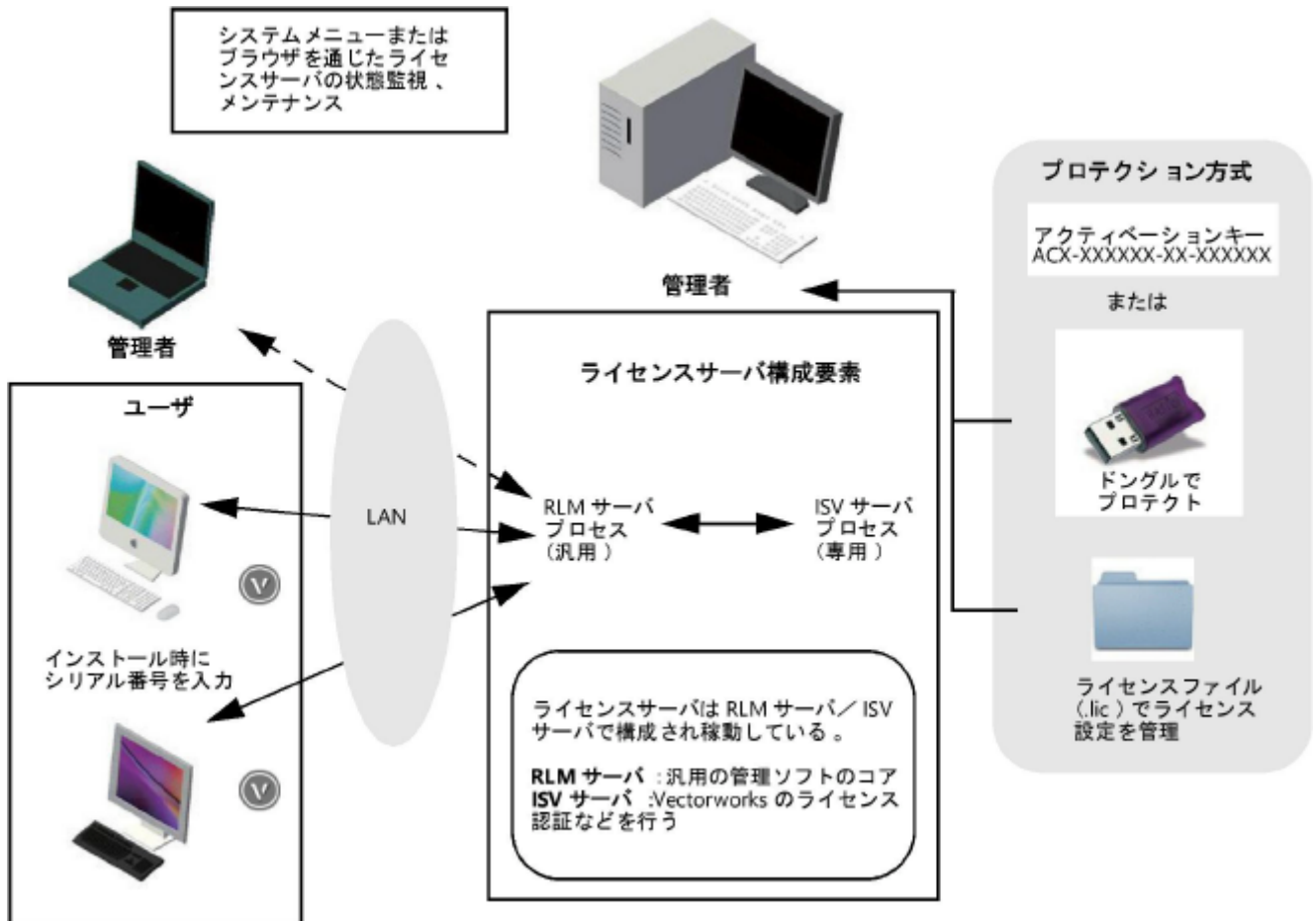
* ライセンス持ち出し中にクライアントマシンが破損するなど、サーバと接続できなくなった場合には、持ち出したライセンスを返却できません。設定した持ち出し日数が経過するとライセンスは自動で返却されます。

.....
クライアントマシンでVectorworksを起動する

Vectorworks Site Protection Server

ライセンス管理ソフトウェアの仕組み

ライセンス管理ソフトウェアは、Reprise License Manager (RLM) サーバーとIndependent Software Vendor (ISV) サーバーの2つで構成されます。これらのサーバーは、TCP/IPで通信して連携します。



RLMサーバー

RLMサーバーは、米国のライセンス管理ソフトウェアベンダReprise Software, Inc,が開発したサーバー管理プログラムです。ライセンス管理ソフトウェアのコア機能として、以下のネットワーク管理タスクを行います。

- ISVサーバーとUDPポート（ポート番号はランダム）で通信を行い、連携して動作します。
- Vectorworks クライアントとTCP/IPとポート（5053）で起動確認のための通信を行います。
- TCP/IPポート（5054）を通じてブラウザと通信し、ライセンス管理ソフトウェアの管理情報を表示します。

RLMサーバーはさまざまなオプション機能を持っていますが、Vectorworksネットワーク版では一部を除き使用しません。

ISVサーバー

Vectorworksクライアントのライセンス管理を行います。ライセンスの利用状況の確認、ログ管理、その他オプション機能を使用することができます。ISVサーバーはVectorworks, Inc.による専用のサーバーで、さまざまな画面で「vektorwrx」と表されます。

ライセンス管理ソフトウェアを起動する

ライセンス管理ソフトウェアを使用するマシンには、アクティベーションキーまたはプロテクトキー（ dongle ）のいずれかが必要です。dongleを使用する場合は、dongleをサーバーマシンのUSBポートに挿入する前に、ライセンス管理ソフトウェアを起動していれば一度終了し、dongle装着後にdongleが点灯することを確認します。

ライセンス管理ソフトウェアをWindowsサービス（Windows）またはデーモン（Mac）としてインストールした場合、マシンを起動すると、ライセンス管理ソフトウェアは自動的に起動して実行し続けます。自動的に起動しない場合は、RLMサーバーを再起動するに記載されているようにrlm.exe（Windows）またはrlm（Mac）を起動します。Windowsでは、サーバーソフトウェアを（Windowsサービスではなく）スタンドアロンで起動すると、コマンドプロンプトウィンドウが開いたままになりますが、最小化できます。

起動後、ライセンス管理ソフトウェアのシステムメニューを使用できるようになります。

システムメニューまたはブラウザを通じたサーバーの管理

通常良く使われる管理機能は、ライセンス管理ソフトウェアのシステムメニューからアクセスできます。必要に応じてブラウザのインターフェイスを使用して、高度な機能にアクセスしたり、ライセンスサーバーを必要な時にリモートで制御したりできます。

.....
ライセンス管理ソフトウェアのシステムメニュー
ブラウザでのサイトプロテクションサーバー管理

ライセンス管理ソフトウェアのシステムメニュー

ライセンス管理ソフトウェアのシステムメニューで、通常必要なライセンス管理者タスクにアクセスできます。

④ ライセンス管理ソフトウェアのシステムメニューにアクセスするには：


1. Windowsでは、コンピューター画面の右下にある、タスクバーの通知領域に表示されているアイコンを右クリックします。Macでは、コンピューター画面の右上にあるメニューバー上のアイコンをクリックします。
2. システムメニューが開きます。メニューコマンドを選択します。

システムメニューコマンド	説明
--------------	----

Vectorworks Site Protection	
サーバー管理画面を開く	サーバー管理画面のブラウザインターフェイスを起動します (Windowsユーザーは、システムメニューアイコンをダブルクリックして開くこともできます)。
サーバー管理ログインアカウントの設定	パスワードを使用してアカウントを設定することで、ブラウザインターフェイスへのアクセスを制御できます。このコマンドを使用すると、サーバー管理画面ログインアカウントの設定ダイアログボックスが開き、ログイン名を作成または入力できます。アカウントを初めて設定する時に、デフォルトで空のパスワードが作成されます。ブラウザのインターフェイスでパスワードを変更してください (<u>サーバーのパスワードを設定する</u> を参照)。 ログイン情報を入力すると、ブラウザのインターフェイスが開きます。それまでアクセスしたことがなければ、場合によりインターフェイスの左側で再度ログインする必要があります。
アンインストール	ライセンス管理ソフトウェアをアンインストールします。
コントロール	ライセンス管理ソフトウェアがアクティブの場合は、コントロールメニューに「起動中」と表示されます。
スタート	停止しているサーバーを起動します。
リスタート	すべての設定とライセンスファイルを更新して、サーバーを再起動します。RLMサーバー全体が完全に再起動するのではなく、クライアントのワークフローも中断されません。
ストップ	サーバーを停止します。再起動するには、スタートをクリックします。
ライセンス	
アクティベーションキーの入力	ライセンス管理ソフトウェアを dongle ではなくアクティベーションキーで有効にしている場合は、発行されたアクティベーションキーを入力し、ライセンスファイルを生成して有効にします。アクティベーションキーは記憶されます。ライセンスを更新するには、ダイアログボックスを開いてOKをクリックするだけで、キーを使用したライセンスが再度有効になります。
ライセンスファイルを追加	ライセンスファイル (.licファイル) を選択します。
ライセンス	現在のすべてのサーバーライセンスファイルの名前が表示されます。必要に応じて、任意のライセンスを無効にできます。

解除	以前にアクティベートしたサーバーライセンスを無効にして、サーバーソフトウェアを別のコンピュータで実行できるようにします。 ライセンスを無効にすると、ライセンスサーバーが再起動され、現在接続されているユーザーとの接続が切断されます。
プロダクト	使用可能な製品ライセンスが一覧表示され、製品ごとに現在使用中のライセンス数が表示されます。
履歴／ログ	
使用履歴を表示	使用履歴ダイアログボックスが開き、次で説明しているように、製品別の使用統計が表示されます： 使用履歴を表示する
デバッグログを表示	デバッグログには設定が記載されており、サーバーの起動で起こるすべてのイベントや、サーバーおよび環境に関するその他の情報が記録されます。問題が発生した際の解決のヒントになります。詳細は、 デバッグログ を参照してください。
レポートログを表示	レポートログファイルは、サーバーで使用できるライセンス関連の統計データを含むテキストファイルです。製品別の使用状況などの履歴情報が含まれています。詳細は、 レポートログ を参照してください。
アクセス権の設定	アクセス権の設定ダイアログボックスが開き、次の動作ができます： アクセス権限を設定する
ヘルプ	このヘルプシステムが開きます。
終了	システムメニューを閉じますが、ライセンスサーバーはユーザーが停止しない限り実行され続けます。

ブラウザのインターフェイスで、これらと同じ機能や使用頻度の少ない多くの機能にアクセスすることもできます。ブラウザでの[サイトプロテクションサーバー管理](#)を参照してください。ブラウザのインターフェイスは、必要に応じてライセンスサーバーをリモートで制御する場合に便利です。

 ライセンスサーバーについて通知や問題がある場合は、注意が必要なことがシステムメニューアイコンによって示されます。

.....

[ライセンスサーバーやライセンスの状態を監視して管理する](#)
[使用履歴を表示する](#)
[アクセス権限を設定する](#)

ライセンスサーバーやライセンスの状態を監視して管理する

システムメニューを使用すると、ライセンス管理ソフトウェアの状態確認や管理が簡単に行えます。

再起動コマンドを選択しても、RLMサーバー全体が完全に再起動するわけではなく、クライアントとの接続も切断されません。このコマンドを使用すると、すべての設定とライセンスファイルが更新されます。クライアント側で権限を変更したり、ライセンスファイルをアクティブにしたりした場合も、自動的に再起動されます。

サーバーを停止してから再起動すると、クライアントとの接続が切断されます。

サーバーの状態を確認するには：

ライセンス管理ソフトウェアのシステムメニューを選択します。

コントロールコマンドを使用すると、実行中かどうかに関係なく、現在の状態が表示されます。

ライセンスサーバー（ISV／RLMサーバー）を停止、起動、または再起動するには：

ライセンス管理ソフトウェアのシステムメニューで、**コントロール>ストップ**または**スタート**、あるいは**コントロール>リスタート**を選択します。

使用可能な製品ライセンスのリストと、現在使用中のライセンス数を表示するには：

ライセンス管理ソフトウェアのシステムメニューを選択します。

プロダクトコマンドを使用すると、使用可能な製品がバージョン別に一覧表示されます。リストの括弧内に、使用中のライセンス数と使用可能なライセンス数が表示されます。

ライセンス管理ソフトウェアのシステムメニュー

使用履歴を表示する

ライセンス管理ソフトウェアのシステムメニューで、ライセンスの使用状況と使用履歴を監視できます。

使用履歴を表示するには：

1. ライセンス管理ソフトウェアのシステムメニューで、**使用履歴を表示**を選択します。

使用履歴ダイアログボックスが開き、時間の経過に伴うユーザー数のグラフが表示されます。

2. **プロダクト**リストで製品とバージョンを選択すると、使用履歴が表示されます。

[レポートログ](#)から取得した使用統計がグラフに表示されます。レポートログを直接参照するには、システムメニューで[履歴／ログ＞レポートログを表示](#)を選択します。

3. ダイアログボックスを閉じるには、xをクリックします。

.....

[サーバー稼動状況ログ](#)

[ライセンス管理ソフトウェアの仕組み](#)

[ライセンス管理ソフトウェアのシステムメニュー](#)

アクセス権限を設定する

ルールを作成することによって、アクセス権限を制御します。これらのルールは許可された製品と持ち出し可能な期間のセットであり、特定のクライアントまたはクライアントグループ、あるいはコンピューターに適用されます。デフォルトでは、すべてのクライアントにアクセスが付与されています。ルールで例外を設定できますが、この設定は必要に応じて取り消すことができます。

アクセス権限を表示して設定するには：

1. ライセンス管理ソフトウェアのシステムメニューで、**アクセス権の設定**を選択します。

アクセス権の設定ダイアログボックスが開き、ユーザーグループの権限ルールが一覧表示されます。ルールは、許可されている製品や予約されている製品のセットで、特定のユーザーまたはコンピューターに適用されます。

▶ [クリックすると、パラメータの表示／非表示を切り替えられます。](#)

パラメータ	説明
ルール	クリックしてルールメニューを開きます。
ルールの追加	ルールの追加／編集ダイアログボックスが開き、権限ルールにルールを追加できます。
ルールの編集	ルールの追加／編集ダイアログボックスが開き、現在選択しているルールを編集できます。
ルールを削除	現在選択しているルールを削除します。
ルールリスト	既存の権限ルールを一覧表示します。
最大持ち出し日数	ライセンスファイルに従って、ユーザーがモジュールを持ち出せる最大日数を設定します。 ライセンスの持ち出し を参照してください。 ライセンスの持ち出しを一切禁止するには、日数を0（ゼロ）に設定します。

リストにいないユーザーのライセンスサーバーへのアクセス許可／拒否	デフォルトでは、すべてのユーザーにライセンスへのアクセスが付与されており、例外のルールのみが設定されています。この場合は、許可が選択されています。しかし、拒否を選択すると状況が逆になり、ルールでアクセスが付与されない限り、すべてのユーザーがライセンスへのアクセスを拒否されます。
----------------------------------	---

2. ダイアログボックスの上部にあるルールメニューで**ルールの追加**を選択してユーザーグループの権限ルールを設定するか、ルール領域を右クリックし、コンテキストメニューから**ルールの追加**を選択します。
3. ルールの追加／編集ダイアログボックスが開きます。

➤ クリックすると、パラメータの表示／非表示を切り替えられます。

パラメータ	説明
ルール名	ルールに名前を付けます。この名前は、ルールのアクセス権限リストに表示されます。
タイプ	ルールのユーザーを定義する方法を、ユーザー名、コンピュータ名、IPアドレスから選択します（ <u>サーバー構文</u> を参照）。
ユーザー	サーバーの使用履歴から取得されたユーザー名またはコンピュータ名のリストを表示します。最後に使用したユーザーがリストの1行目に表示されます（IPアドレスはログから取得できないため、表示されません）。 リストでユーザー名またはコンピュータ名を選択して、その選択対象に適用するルールを作成し、 追加 をクリックしてユーザーリストに送信します。 ユーザー名、コンピュータ名、またはIPアドレスを入力して 追加 をクリックし、リストに追加することもできます。名前にスペースは使用できません。
ユーザーリスト	グループに追加されたユーザーが一覧表示されます。ユーザーを削除するには、 ユーザーリスト で項目を選択して 削除 をクリックします。
Vectorworksの最大インスタンス数	ユーザー1人につき実行できるVectorworksのインスタンス数を設定します。通常、この値は1です。
許可プロダクト	リスト内のユーザーが起動を許可されている製品を指定します。
すべて／なし	すべての製品を一度に選択するか、選択解除します。
予約プロダクト	リストのユーザーに対して、ライセンスのプールから製品を予約します。それら特定のユーザーのみが、予約されている製品ライセンスへのアクセスを付与されます。このタ

	タイプのルールに複数のユーザーが含まれる場合は、予約されているライセンスを共有します。
すべて／なし	すべての製品を一度に選択するか、選択解除します。

4. 「ユーザー」は、ユーザー名、コンピューター名、またはIPアドレスで表すことができます。グループはユーザーのリストで構成されています。ユーザーグループに必要なルールを定義します。たとえば、Vectorworks ArchitectおよびFundamentals製品のみ使用を許可されるユーザーグループもあれば、Vectorworks LandmarkおよびFundamentalsのみ使用できるユーザーグループもあります。製品を選択していない場合、リスト内のユーザーはサーバーにまったく接続できません。ユーザーグループには、ライセンスを予約することもできます。それぞれの状況に応じて、グループごとに個別のルールが必要です。ルール内のユーザーは固有にする必要があります（同じユーザーに2つの異なるルールを設定することはできません）。
5. **OK**をクリックして、アクセス権の設定ダイアログボックスに戻ります。
6. 既存のルールを編集するには、ルールを選択してからダイアログボックスの上部にあるルールメニューで**ルールの編集**を選択するか、ルールをダブルクリックするか、あるいはルールを右クリックしてコンテキストメニューから**ルールの編集**を選択します。
7. 既存のルールを削除するには、ルールを選択してからダイアログボックスの上部にあるルールメニューで**ルールを削除**を選択するか、ルールを右クリックしてコンテキストメニューから**ルールを削除**を選択します。
8. **OK**をクリックして、アクセス権の設定ダイアログボックスを閉じます。

.....

ライセンス管理ソフトウェアの仕組み

ライセンス管理ソフトウェアのシステムメニュー

ブラウザでのサイトプロテクションサーバー管理

通常の操作にはライセンス管理ソフトウェアのシステムメニューを使用することを推奨しますが、Repriseのブラウザインターフェイスを通じてすべての管理機能にアクセスし、さまざまなライセンス管理業務を行うこともできます。これらの機能にはリモートでアクセスすることもできます。

さまざまなサーバー機能へのアクセスは、パスワードファイルで制御できます。サーバーのパスワードを設定するを参照してください。

Repriseソフトウェアには多くのオプションが含まれています。複数の場所から複数のオプションにアクセスできます。オプションの中には、Vectorworksネットワーク版でまったく使用されていないものもあります。

.....

サーバー管理画面

サーバー構文

[サーバーオプションを指定する](#)
[サーバーステータス画面](#)
[ISVサーバーの各画面](#)
[サーバーの稼動状況を表示する](#)
[サーバー稼動状況ログ](#)
[ポート番号を変更する](#)
[ライセンス管理ソフトウェアを終了する](#)
[サーバー起動オプション](#)
[サーバーのパスワードを設定する](#)
[RLMオプションを制御する](#)
[Windowsサービスの設定](#)
[トラブルシューティング](#)

サーバー管理画面

ライセンス管理画面（「Reprise License Server Administration」ウインドウ）を開くには：

1. ライセンス管理ソフトウェアのシステムメニューで、**Vectorworks Site Protection > サーバー管理画面を開く**を選択します（Windowsでは、システムメニューアイコンをダブルクリックして開くこともできます）。

あるいは、ライセンス管理ソフトウェアを実行しているマシン上でブラウザを起動します。アドレスにlocalhost:5054と入力して確定します。

サーバー機以外のマシンから管理画面を開くには、以下のようにURLとしてIPアドレス等を指定することで操作できます。

<http://サーバーマシンのIPアドレス:ホスト番号>

2. 管理画面が表示されます。

管理画面の左ペインの各ボタンで、ライセンス管理ソフトウェアの各機能を使用できます。以下では、主要機能の概要を詳細な説明へのリンクと共に示します。

ボタン	操作内容
Status (ステータス)	RLMサーバーのステータスが表示され、重要なISVサーバー操作の多くにアクセスできます。詳細は サーバーステータス画面 を参照してください。
Shutdown (シャットダウン)	Shutdown License Server画面が表示され、ISVサーバーを終了できます。 ISVサーバーを終了する を参照してください。 この操作はステータス画面のISV Serversからも行えます。 サーバー起動オプション でrlmdownコマンドを無効にしている場合、このボタンは表示されません。
Reread / Restart Servers (リリード / リスタートサーバー)	Reread / Restart Servers画面が表示され、ライセンスファイルを更新または置き換えられます。 ISVサーバーを再起動する を参照してください。 この操作はステータス画面のISV Serversからも行えます。
Switch Reportlog (スイッチレポートログ)	指定したISVサーバーのレポートログを閉じ、指定した名前の新しいログに書き込み先を変更します。詳細は次を参照してください： 別のレポートログファイルに切り替える

New Reportlog (ニューレポートログ)	指定したISVサーバー用に、指定した名前で新しいレポートログを作成します。詳細は 新規レポートログを作成する を参照してください。
Switch Debuglog (スイッチデバッグログ)	デバッグ情報の記述を開始します。詳細は 別のデバッグログファイルに切り替える を参照してください。
Edit License Files (エディットライセンスファイル)	ライセンスファイルを編集できます。詳細は サーバーのポート番号を変更する を参照してください。
Activate License (アクティベートライセンス)	本ソフトウェアでは使用できません。
Diagnostics (ディアグノスティクス)	サーバーが利用中のホストID、 dongle、MACアドレス、ライセンスファイルなどの情報をテキストに書き出します。
RLM Manual... (RLMマニュアル)	RLMのオンラインマニュアルを表示します (英語)。 マニュアルの一部は、Vectorworksネットワーク版に対応していません。
System Info (システムインフォ)	RLMのシステム情報を表示します。
About... (アバウト)	RLMサーバーについての情報を表示します (英語)。

サーバー構文

[サーバーオプションを指定する](#)

[サーバーステータス画面](#)

[ISVサーバーの各画面](#)

サーバー構文

サーバーコマンドには共通の書式を使用します (半角スペースは記号で表しています)。

コマンド名_パラメータ1_パラメータ2

- コマンド行はすべて半角で入力し、コマンド名および各パラメータは半角スペースで区切ります (例では半角スペースを_記号で表しています)。コマンド名またはパラメータの中にスペースを含めることはできません。
- また、タブや改行記号も含めることはできません。各コマンドは別々の行に入力する必要があります。
- パラメータに <> & " の文字は使用できません。

- オプションファイルにコメントを追加するには、行を「#」で始めます。
- 一行の最大文字数は1024字です。
- 大文字／小文字は区別しません。
- ワイルドカード記号(*)を使用できます。この記号は任意の文字を指し、たとえばIPアドレスに使われている場合は、0～255のすべての値が当てはまります。
- 半角スペースの含まれているファイルパスは引用符で囲みます。
- GROUP、HOST_GROUP、INTERNET_GROUP コマンドを使用して、類似のユーザー、コンピューター、またはIPアドレスのグループに、制限や権限を適用できます。ただし、事前にグループを定義する必要があります。複数のグループを作成できるほか、同じコマンドを使用していつでも好きな時に既存のグループにメンバーを追加できます。

サーバーコマンドでは、共通のパラメータを使用してクライアント側のユーザーを定義します。

コマンド	説明	構文
user (ユーザー)	アカウントの制限または権限を設定するユーザーアカウント名を指定します。	USER_ユーザー名 例：USER_tom
host (ホスト)	アカウントの制限または権限を設定するコンピューター名を指定します。Macでは、「システム環境設定」>「共有」を選択し、「コンピューター名」の「編集」をクリックすると表示される「ローカルホスト名」を使用します。Windowsでは「コンピューター名」を使用します。	HOST_ホスト名 例：HOST_pc10196
internet (インターネット)	アカウントの制限または権限を設定するIPアドレスを指定します。	INTERNET_IPアドレス 例： Internet_172.67.94.13 Internet_172.16.*
group (グループ)	複数ユーザーのグループを定義します。	GROUP_グループ名_ユーザー名1_ユーザー名2 例： GROUP_engineers_tom_sarah_franz GROUP_engineers_paul (paulを既存のエンジニアグループに追加します)

		GROUP_architects_laura_cheng_juan_jimenez
host_group (ホスト__グループ)	複数のコンピューター名のグループを定義します。	HOST_GROUP_ホストグループ名_ホスト名1_ホスト名2 例：HOST_GROUP_designers_pc10196_pc10567
internet_group (インターネット__グループ)	複数のIPアドレスのグループを定義します。	INTERNET_GROUP_インターネットグループ名_IPアドレス1_IPアドレス2 例： INTERNET_GROUP_drafting_1.1.1.1_2.2.*.*_3.3.3.3

.....

[サーバーオプションを指定する](#)
[サーバーステータス画面](#)
[サーバー管理画面](#)

サーバーオプションを指定する

システム管理者は、モジュールおよびライセンスされたユーザーのオプションを制御できません。たとえば、一部のユーザーには Vectorworks ライセンスを持ち出せないようにしたり、あるいは他のユーザーよりも短い期間だけ持ち出せるようにしたりすることができます。管理者は、レポートログおよびデバッグログファイルのオプションを設定することもできます。

ユーザー権限とモジュールを管理する最も便利な方法は、システムメニューを使用して[アクセス権限を設定](#)することです。以下で説明するように、ブラウザインターフェイスを使用することもできますが、この方法は推奨されていません。

ソフトウェアの持ち出しを許可しないユーザーが多い場合は、個別に除外するのではなく、INCLUDEALL_ROAMを使用して特定のユーザーのみが持ち出せるようにします。

モジュール、ユーザー、またはログファイルのオプションを指定して編集するには：

1. 管理画面で**Status**をクリックします。
サーバーステータスペインが表示されます。
2. ISV Serversの表で、OPTIONS列の**vektorwrx**をクリックします。
Edit ISV Options画面が表示されます。
3. [サーバー構文](#)で説明している構文を使用して、ユーザーオプションを指定または編集します。

構文と例では、クライアントまたはクライアントグループの権限を設定するにあたり、ユーザー、ホスト、インターネット、グループ、ホストグループ、インターネットグループの区別なく指定できます。

コマンド	説明	構文
roam_max_days (ローム_マックス_デイズ)	持ち出しの機能を、特定の日数（通常は最大30日）と特定のモジュールに制限します。 持ち出しできないようにするには、マイナスの値を使用します。	ROAM_MAX_DAYS_持ち出し日数_モジュール名 例：ROAM_MAX_DAYS_3_architect ROAM_MAX_DAYS_-1_landmark
Exclude (エクスクルード)	指定したクライアントに対し、モジュールの使用を制限します。	EXCLUDE_モジュール_user_ユーザー名 例：EXCLUDE_landmark_user_sam
Include (インクルード)	指定していないすべてのクライアントに対し、モジュールの使用を制限します。	INCLUDE_モジュール_group_グループ名 例：INCLUDE_spotlight_group_designers
Excludeall_roam (エクスクルードオール_ローム)	特定のクライアントの持ち出しを制限します。	EXCLUDEALL_ROAM_user_名_姓 例:EXCLUDEALL_ROAM_user_susan_rodriguez
Includeall_roam (インクルードオール_ローム)	特定のクライアントの持ち出しを許可します。	INCLUDEALL_ROAM_group_グループ名 例：INCLUDEALL_ROAM_group_architects
Reserve (リザーブ)	重要なクライアントのライセンスを予約します。	RESERVE_ライセンス数_モジュール名_ユーザー_ユーザー名 例：RESERVE_1_spotlight_user_elena RESERVE_3_architect_group_engineers
Max (マックス)	クライアント1台あたりにチェックアウトするライセンスの最大数を制限します。	MAX_ライセンス数_モジュール名_ユーザー_名_姓 例：MAX_3_landmark_host_group_designers
Debuglog (デバッグログ)	ISVサーバーのデバッグログを開きます。	DEBUGLOG_“ファイルパス_ファイル名” 例：DEBUGLOG_“Log\dlog.txt”
Debuglog+ (デバッグログプラス)	ISVサーバーごとに異なるデバッグログを作成し、ログを上書きするのではなく、ログ情報を自動的に追加します。起動オプションとしても指定できます。 <u>サーバー起動オプション</u> を参照してください。	DEBUGLOG_“+ファイルパス_ファイル名” 例：DEBUGLOG_“+Log\dlog.txt”

Nolog in (ノーログイン) Nolog out (ノーログアウト) Nolog denied (ノーログデナイド)	ライセンスのチェックイン、チェックアウト、または拒否されたライセンスに関する情報をサーバーがデバッグログに記録しないように指定します。	NOLOG_種類 例：NOLOG_denied
Reportlog (レポートログ)	ライセンスの利用状況に関する情報をログファイルに保存します。	REPORTLOG_“ファイルパスファイル名”_種類 Windowsでの例：REPORTLOG_“C:\My_Reports\Reportlog.txt”_detailed Macでの例：REPORTLOG_“My Reports/Reportlog.txt”_std
Reportlog + (レポートログ+)	ISVサーバーごとに異なるレポートログを作成し、ログを上書きするのではなく、ログ情報を自動的に追加します。	REPORTLOG_“+ファイルパス_ファイル名”
Rotate (ロテート)	現在のレポートログを保存して閉じ、新しいログを作成します。	ROTATE_[daily weekly monthly #days] 例：ROTATE_daily

4. Update Optionsをクリックします。

オプションは、RLMソフトウェアと同じ以下のネットワークライセンスフォルダに置かれているvektorwrx.optファイルに保存されます：WindowsではProgramData\Vectorworks Site Protectionフォルダ、Macでは/Library/Application Support/Vectorworks Site Protection/

オプションを削除してデフォルトの状態へ戻したい時は、入力したコマンドを削除した後で Update Optionsボタンを押してから、ISV サーバを再起動してください。

.....

[サーバーステータス画面](#)

[サーバー管理画面](#)

[レポートログ](#)

[デバッグログ](#)

[サーバーのパスワードを設定する](#)

[RLMオプションを制御する](#)

サーバーステータス画面

アクセス：管理画面のStatusをクリックして、ステータス画面にアクセスします。

説明：この画面から、ライセンス管理ソフトウェアでライセンス管理を行うISVサーバーの各種機能にアクセスできます。

これらの機能の多くは、ライセンス管理ソフトウェアのシステムメニューからアクセスした方が便利です。

The screenshot displays the RLM management interface. On the left, there is a vertical menu with buttons for: Status, Shutdown, Reread/Restart Servers, Switch Reporting, New Reporting, Switch Debuglog, and Edit License Files. An arrow points from the 'Status' button to the main content area.

The main content area is divided into several sections:

- RLM version information:** A table showing RLM software version (v14.0 (build:2)), RLM comm version (v1.2), debug log file (_stdout), and license files (C:\ProgramData\Vektorworks Site Protection\License.lic).
- RLM server statistics:** A table with columns for rim Statistics, Since Start, Since Midnight, and Recent. It includes rows for Start time, Messages, and Connections.
- Buttons:** EDIT rim Options and SHOW rim Debug Log.
- ISV server information:** A table with columns: Name, port, Running, Restarts, Server Status, License Usage, Debug Log, REREAD, OPTIONS, TRANSFER, SHUTDOWN, and ACTIVATE. It shows one server named 'vektorwx' on port 59062.

パラメータ	説明
RLM version information (RLMバージョンインフォメーション)	RLMソフトウェアとライセンスに関する情報を表示します。
RLM software version (RLMソフトウェアバージョン)	RLMソフトウェアのバージョンです。
RLM comm version (RLMコムバージョン)	クライアント-サーバー間の通信のバージョンです。
debug log file (デバッグログファイル)	デバッグログファイル名です。
license files (ライセンスファイル)	ライセンスファイル名です。
RLM Server Statistics (RLMサーバースタティスティクス)	サーバーの起動時間やその他の通信情報を表示します。サーバーでは、毎日深夜0時にすべてのライセンスファイルを再読み込みします。
Since Start/Since Midnight/Recent (シンスタート/シンスミッドナイト/レセント)	各列はそれぞれ、開始時から/本日/30分前からの起動時間を表しています。長時間起動しているサーバーソフトウェアに、各時間の範囲でどのくらいの負荷がかかっているかの目安になります。
Start time (スタートタイム)	各列に対応した時間のスタート時刻を表示します。

Messages (メッセージ)	RLMサーバーに通信されたTCPメッセージの数を表示します。
Connections (コネクション)	RLMサーバーに送信されたコネクションの数を表示します。
EDIT rlmOptions (エディットrlmオプション)	RLMオプションファイルを編集します。次を参照してください： RLMオプションを制御する
SHOW rlm Debug Log (SHOW rlmデバッグログ)	RLMデバッグログの最新の動作を表示します。ここに表示される情報は、ライセンス管理ソフトウェアのコマンドラインウィンドウの情報の中から、主にRLMサーバーの情報（システム関連の情報）を抜粋したものです。Vectorworksソフトウェアでは、RLMデバッグログは不要です。ISVデバッグログが使用されます。
ISV Servers (ISVサーバー)	ライセンス利用状況のデータを示し、ISVサーバーを操作し、ISVサーバーの簡単なステータスを表示します。ライセンス管理機能にもアクセスできます。ライセンス管理ソフトウェアの各機能は、 ISVサーバーの各画面 で詳しく説明しています。
Name (ネーム)	「vektorwrx」は、VectorworksのISVを指します。Vectorworks社はRLMソフトウェアから、独立系ソフトウェアベンダ (ISV) であると見なされます。
port (ポート)	ISVサーバーが使用するTCPポートを表示します。
Running (ランニング)	サーバーソフトウェアが実行中かどうかをYes/Noで示します。
Restarts (リスタート)	サーバーソフトウェアが再起動された回数を表示します。
Server Status (サーバーステータス)	サーバーソフトウェアの統計情報やライセンスの状態を表示します。詳細は ISVサーバーのステータス を参照してください。
License Usage (ライセンスユース)	クリックすると、現在のライセンス使用状況が表示されます。詳細は ライセンス利用状況 を参照してください。
Debug Log (デバッグログ)	Vectorworksネットワーク版の最新の動作のログファイルを表示します。ここに表示される情報は、Vectorworksネットワーク版のコマンドラインウィンドウの情報を抜粋したもので、主にISVサーバー（ライセンスを使用または返却するクライアント）に関する統計情報が表示されます。 詳細は デバッグログ を参照してください。
REREAD (リリード)	クリックするとISVサーバーを再起動し、再起動時にライセンスファイルとオプションファイルを再読み込みします（ ライセンスファイルを再読み込み/再起動する を参照）。

OPTIONS (オプション)	クリックするとEdit ISV Options画面を表示します。詳細は オプションを表示および編集する を参照してください。
TRANSFER (トランスファー)	本ソフトウェアでは使用できません。
SHUTDOWN (シャットダウン)	ISVサーバーを終了します。 ライセンス管理ソフトウェアを終了する を参照してください。 サーバー起動オプション でrlmshutdown command disabledを設定してWindowsサービスをインストールしている場合、このボタンは表示されません。
ACTIVATE (アクティベート)	(dongleではなく) アクティベーションキーを入力して、ライセンスを有効または無効にできます。

.....

[ISVサーバーの各画面](#)

ISVサーバーの各画面

これらの機能により便利にアクセスできる方法として、[ライセンス管理ソフトウェアのシステムメニュー](#)を使用することを推奨します。

ライセンス管理ソフトウェアのこの領域は、アクセスして使用する頻度が高いため、ボタンごとに説明します。一部の機能は他のセクションでさらに詳しく説明しており、リンクを記載しています。

.....

[ISVサーバーのステータス](#)

[ライセンス利用状況](#)

[デバッグログを表示する](#)

[ライセンスファイルを再読み込み／再起動する](#)

[オプションを表示および編集する](#)

[ライセンス管理ソフトウェアを終了する](#)

[サーバー管理画面](#)

ISVサーバーのステータス

アクセス：管理画面の**Status**をクリックして、ステータス画面にアクセスします。Server Status列の**vektorwrx**をクリックします。

説明：この画面では、ISVサーバーのステータスを表示します。ライセンスの利用状況とステータスを確認します。

これらの機能の多くは、[ライセンス管理ソフトウェアのシステムメニュー](#)からアクセスした方が便利です。

ISV Servers										
Name	port	Running	Restarts	Server Status	License Usage	Debug Log	REREAD	OPTIONS	TRANSFER	SHUTDOWN
vektorwrx	49213	Yes	1	vektorwrx	vektorwrx	vektorwrx	vektorwrx	vektorwrx	vektorwrx	vektorwrx



vektorwrx software version	v14.0 (build2)
vektorwrx comm version	v1.2
debug log file	C:\ProgramData\Vectorworks Site Protection\debuglog.txt
report log file	C:\ProgramData\Vectorworks Site Protection\reportlog.txt

ISV version information

vektorwrx Statistics	Since Start	Since Midnight	Recent
Start Time	08/14 17:41:29	08/15 08:51:57	08/15 11:22:20
Messages	17093 (0/sec)	11796 (1/sec)	1030 (1/sec)
Connections	8519 (0/sec)	5899 (0/sec)	515 (0/sec)
Checkouts	11 (0/sec)	0 (0/sec)	0 (0/sec)
Denials	0 (0/sec)	0 (0/sec)	0 (0/sec)
License Removals	0 (0/sec)	0 (0/sec)	0 (0/sec)
Current Connections	1		

vektorwrx statistics

License pool status

Product	Pool	Ver	Expires	count	soft lim	inuse	res	hostid	timeout	share	checkouts	Show Usage
fundamentals	1	2018	permanent	2	3	0	1		0	None	2	usage...
designer	2	2018	permanent	3	3	0	0		0	None	2	usage...
renderworks	3	2018	permanent	3	3	0	0		0	None	7	usage...
rim_room	5	1.0	permanent	Uncounted	0	0	0	ANY	0	None	0	usage...

License pool status

Enter license password to select license results. Only licenses with matching passwords (or with no passwords) will be displayed above.

License Password:

Refresh

BACK

パラメータ	説明
ISV Version Information (ISVバージョンインフォメーション)	ISVサーバーの情報を表示します。
vektorwrx software version (vektorwrxソフトウェアバージョン)	ISVサーバーのバージョンです。
vektorwrx comm version (vektorwrxコムバージョン)	クライアント-サーバー間の通信のバージョンです。
debug log file (デバッグログファイル)	デバッグログファイル名です。
report log file (レポートログファイル)	レポートログファイル名です。
vektorwrx Statistics (vektorwrxスタティクス)	ライセンス管理ソフトウェアの開始時刻と通信情報を表示します。ライセンス管理ソフトウェアは、毎日深夜0時にす

	<p>すべてのライセンスファイルを再読み込みします。詳細はサーバーの稼動状況を表示するを参照してください。</p>
Since Start／Since Midnight／Recent（シンススタート／シンスミッドナイト／レセント）	<p>各列はそれぞれ、開始時から／本日／30分前からの起動時間を表しています。長時間起動しているサーバーソフトウェアに、各時間の範囲でどのくらいの負荷がかかっているかの目安になります。</p>
Start time（スタートタイム）	<p>各列に対応した時間のスタート時刻を表示します。</p>
Messages（メッセージ）	<p>ISVサーバーに通信されたTCPメッセージの数を表示します。</p>
Connections（コネクション）	<p>ISVサーバーに送信された接続（コネクション）の数を表示します。</p>
Checkouts（チェックアウト）	<p>ライセンスが使用された回数を表示します。</p>
Denials（デナイアル）	<p>ライセンスの使用を拒否した回数を表示します（ISVオプションで設定すると、ライセンスの使用を拒否できません）。</p>
License Removals（ライセンスリムーバル）	<p>ユーザーが使用中のライセンスを強制的に削除し、Vectorworksサーバーソフトウェアに返却させた回数を表示します。</p>
Current Connections（カレントコネクション）	<p>現在接続中のライセンス数を表示します。</p>
License pool status（ライセンスプールステータス）	
Product（プロダクト）	<p>Reprise Software社の内部で使用するライセンス持ち出し設定ファイルrlm_roamを表示します。</p>
Pool（プール）	<p>ライセンスプール番号です。</p>
Ver（バージョン）	<p>製品バージョンを表示します。</p>
Expires（エクスパイア）	<p>ライセンスの有効期限を表示します。Permanentは有効期限のないライセンスです。</p>
count（カウント）	<p>使用可能なライセンス数から、その製品で予約されているライセンスを引いた数を表示します。</p>

soft lim (ソフトリミット)	本ソフトウェアでは、カウント値と予約されているライセンス数の合計（使用可能なライセンスの総数）を表示します。
inuse (インユース)	現在使用中のライセンス数を表示します。
res (リザーブド)	予約されているライセンス数を表示します。
roam (ローム)	現在持ち出し中のライセンス数を表示します。ライセンスを持ち出ししているクライアントがない場合は、項目が表示されません。
hostid (ホストID)	ライセンスが dongle などでハードウェア保護されているかを表示します。本ソフトウェアでは、サーバーソフトウェア自体が dongle で保護されているため、ANY と表示されます。
share (シェア)	このフィールドには、ライセンスが共有されているかどうか（1台のマシン上で同じユーザーがいくつも開いているか）が表示されます。本ソフトウェアでは、ライセンスの共有機能は許可されていないため、None と表示されます。同じユーザーが同じマシン上で複数の Vectorworks を開く場合、共有機能は許可されていないため、複数のライセンスが使用されます。
checkouts (チェックアウト)	ライセンスがチェックイン／チェックアウトされた回数を表示します。
Show Usage (ショウユージ)	クリックすると、使用者データを表示します。詳細は ライセンス利用状況 を参照してください。
License Password (ライセンスパスワード)	本ソフトウェアでは使用できません。
Refresh (リフレッシュ)	このページを再読み込みします。
BACK (バック)	前の画面に戻ります。

.....

[ISVサーバーの各画面](#)

ライセンス利用状況

アクセス：ライセンス管理ソフトウェアのシステムメニューで、**ライセンス**を選択します。製品ごとに現在使用中のライセンスと使用可能な数が表示されます。

あるいは、管理画面の**Status**をクリックして、ステータス画面にアクセスします。License Usage列の**vektorwrx**をクリックします。

説明：この画面で、ライセンスの利用状況を確認します。現在使用されている製品ライセンスや使用中のユーザー、ホスト名でライセンスをフィルタし、条件に合致するものを一覧表示させることができます。

これらの機能の多くは、ライセンス管理ソフトウェアのシステムメニューからアクセスした方が便利です。

ISV Servers											
Name	port	Running	Restarts	Server Status	License Usage	Debug Log	REREAD	OPTIONS	TRANSFER	SHUTDOWN	
vektorwrx	49213	Yes	1	vektorwrx	vektorwrx	vektorwrx	vektorwrx	vektorwrx	vektorwrx	vektorwrx	



Get License Usage

If the Product/User/Host fields are all blank, then all licenses in use will be displayed.
Data entered in any of these fields will filter the list of licenses returned.
Only licenses with matching passwords (or with no passwords) will be displayed.

ISV:

Product:

User:

Host:

License Password:

GET License Usage

BACK

パラメータ	説明
ISV	「vektorwrx」を選択すると、Vectorworksネットワーク版で利用可能なライセンスの使用状況がわかります。
Product (プロダクト)	fundamentals、architectのように製品名を入力すると、一覧表示させるライセンスを検索できます。
User (ユーザー)	ユーザー-1, ユーザー-2のようにユーザー名をカンマで区切って入力すると、ライセンスをユーザー別に検索できます。
Host (ホスト)	IPアドレスやlocalhostなど、ホスト名を入力すると、一覧表示させるライセンスを検索できます。
Licsnse Password (ライセンスパスワード)	本ソフトウェアでは使用できません。
GET License Usage (ゲットライセンスユサージ)	選択した検索基準に基づいてライセンス利用状況の統計情報を表示します。
BACK (バック)	前の画面に戻ります。

.....
[サーバーの稼動状況を表示する](#)
[サーバー稼動状況ログ](#)
[ISVサーバーの各画面](#)

デバッグログを表示する

アクセス：ライセンス管理ソフトウェアのシステムメニューで、[履歴／ログ](#) > [使用履歴](#)を表示を選択します。

あるいは、管理画面の**Status**をクリックして、ステータス画面にアクセスします。**Debug Log**列のvektorwrxをクリックします。

説明：ライセンス管理ソフトウェアのコマンドラインウィンドウの情報の中から、ISVサーバーに関する最新の情報を20行表示します。主にクライアントのVectorworksが、ライセンスを使用または返却した記録が表示されます。

これらの機能の多くは、[ライセンス管理ソフトウェアのシステムメニューからアクセスした方が便利です。](#)

[デバッグログを作成しなければ、データを記録できません。](#) [別のデバッグログファイルに切り替える](#)を参照してください。

Refreshをクリックして、デバッグログ情報を更新します。**BACK**をクリックして、前の画面に戻ります。

ISV Servers	Name	port	Running	Restarts	Server Status	License Usage	Debug Log	REREAD	OPTIONS	TRANSFER	SHUTDOWN
	vektorwrx	49213	Yes	1	vektorwrx	vektorwrx	vektorwrx	vektorwrx	vektorwrx	vektorwrx	vektorwrx

Recent Debug Log Entries

```
ISV vektorwrx Debug Log, last 20 lines
08/14 17:57 (vektorwrx) ==== Reread request by *****
08/14 17:58 (vektorwrx) ==== Reread request by *****
08/14 17:59 (vektorwrx) OUT: fundamentals v2021 by g*****@macbook-pro-9.local
08/14 17:59 (vektorwrx) IN: fundamentals v2021 by g*****@macbook-pro-9.local
08/14 17:59 (vektorwrx) OUT: fundamentals v2021 by g*****@macbook-pro-9.local
08/14 17:59 (vektorwrx) IN: fundamentals v2021 by g*****@macbook-pro-9.local
08/14 17:59 (vektorwrx) OUT: fundamentals v2021 by g*****@macbook-pro-9.local
08/14 17:59 (vektorwrx) IN: fundamentals v2021 by g*****@macbook-pro-9.local
08/14 17:59 (vektorwrx) OUT: landmark v2021 by g*****@macbook-pro-9.local
08/14 17:59 (vektorwrx) IN: landmark v2021 by g*****@macbook-pro-9.local
08/14 18:02 (vektorwrx) ==== Reread request by *****
08/14 18:03 (vektorwrx) ==== Reread request by *****
08/14 18:52 (vektorwrx) ==== Reread request by *****
08/15 08:51 (vektorwrx) *****
```

例のように、デバッグログには、次の情報が表示されます。

- OUT: fundamentals v2021 by XXXXX (クライアントがライセンスの使用を開始した日時を表示します)
- IN: fundamentals v2021 by XXXXX (ライセンスが返却された日時を表示します)

ライセンスファイルを再読み込み／再起動する

アクセス：ライセンス管理ソフトウェアのシステムメニューで、コントロール > リスタートを選択します。

あるいは、管理画面の**Status**をクリックして、ステータス画面にアクセスします。**REREAD**列のvektorwrxをクリックします。

説明：ISVサーバーを再起動すると同様に、ライセンスファイルを再度読み込んで再起動できます。ライセンスファイルを置き換えたり、オプションファイルを読み込んだりすることもできます。

これらの機能の多くは、ライセンス管理ソフトウェアのシステムメニューからアクセスした方が便利です。

ISV Servers										
Name	port	Running	Restarts	Server Status	License Usage	Debug Log	REREAD	OPTIONS	TRANSFER	SHUTDOWN
vektorwrx	49213	Yes	1	vektorwrx	vektorwrx	vektorwrx	vektorwrx	vektorwrx	vektorwrx	vektorwrx

↓

Reread/Restart Servers

If ISV is specified as "all" or blank, all ISV servers will reread licenses

ISV: vektorwrx ▼

REREAD/RESTART

CANCEL

オプションを表示および編集する

アクセス：管理画面の**Status**をクリックして、ステータス画面にアクセスします。**OPTIONS**列のvektorwrxをクリックします。

説明：この画面で、ISVサーバーのオプションを制御します。ライセンス設定を指定して、レポートログの出力を制御できます。サーバーオプションを指定するおよびレポートログの設定を参照してください。

これらの機能の多くは、ライセンス管理ソフトウェアのシステムメニューからアクセスした方が便利です。

ISV Servers				Server Status	License Usage	Debug Log	REREAD	OPTIONS	TRANSFER	SHUTDOWN
Name	port	Running	Restarts							
vektorwrx	49213	Yes	1	vektorwrx	vektorwrx	vektorwrx	vektorwrx	vektorwrx	vektorwrx	vektorwrx



ISV vektorwrx Options

```
# Access permissions
INTERNET_GROUP Rule1
EXCLUDE architect INTERNET_GROUP Rule1
EXCLUDE designer INTERNET_GROUP Rule1
EXCLUDE fundamentals INTERNET_GROUP Rule1
EXCLUDE landmark INTERNET_GROUP Rule1
EXCLUDE spotlight INTERNET_GROUP Rule1
EXCLUDE third_party1 INTERNET_GROUP Rule1
EXCLUDE third_party2 INTERNET_GROUP Rule1
EXCLUDE third_party3 INTERNET_GROUP Rule1
EXCLUDE third_party4 INTERNET_GROUP Rule1
EXCLUDE third_party5 INTERNET_GROUP Rule1
RESERVE 1 fundamentals INTERNET_GROUP Rule1
ROAM_MAX_DAYS 30 fundamentals
# Place any custom configuration here
REPORTLOG "+C:\ProgramData\Vectorworks Site
Protection\reportlog.txt"
DEBUGLOG "C:\ProgramData\Vectorworks Site
Protection\debuglog.txt"
```

Update Options

ISVサーバーの各画面

サーバーの稼動状況を表示する

ライセンス管理ソフトウェアの稼動状況が、複数の表に一覧表示されます。RLM statistics（ウェブサーバーの統計）、ISV statistics（vektorwrxの統計）、現在のライセンス利用状況の統計を確認できます。

これらの機能の多くは、ライセンス管理ソフトウェアのシステムメニューからアクセスした方が便利です。

RLM Statistics

アクセス：管理画面の**Status**をクリックします。RLMサーバー情報とサーバー統計情報が表示されます。

説明：RLMサーバー全体の稼働時間と通信状態が表示されます。

ISV Statistics

アクセス：管理画面の**Status**をクリックして、ステータス画面にアクセスします。**Server Status**列のvektorwrxをクリックします。

説明：vektorwrxの統計には、ISVサーバーの負荷情報が表示されます。詳細は[ISVサーバーのステータス](#)を参照してください。

ライセンス稼働状況

アクセス：管理画面の**Status**をクリックして、ステータス画面にアクセスします。**License Usage**列のvektorwrxをクリックします。

あるいは、管理画面の**Status**をクリックして、ステータス画面にアクセスします。Server Status列のvektorwrxをクリックし、License Pool領域で、Show License Usage列の**Usage**をクリックします。

説明：[ライセンス利用状況](#)で説明しているように、使用中のライセンスが表示されます。

ISV Servers											
Name	port	Running	Restarts	Server Status	License Usage	Debug Log	REREAD	OPTIONS	TRANSFER	SHUTDOWN	
vektorwrx	49213	Yes	1	vektorwrx	vektorwrx	vektorwrx	vektorwrx	vektorwrx	vektorwrx	vektorwrx	vektorwrx



Get License Usage

If the Product/User/Host fields are all blank, then all licenses in use will be displayed.
Data entered in any of these fields will filter the list of licenses returned.
Only licenses with matching passwords (or with no passwords) will be displayed.

ISV:

Product:

User:

Host:

License Password:

GET License Usage

BACK

Reprise License Server Administration

License status for ISV vektorwrx

Product	Pool	Ver	user	host	PID	req ver	# lic	# res	Out time	In (MM) TIME	CLICK TO REMOVE
dm_scam	1	1.0	vektorwrx	vektorwrx	1993	1.0	1	0	0123 16:39	None	Remove
dm_scam	1	1.0	vektorwrx	vektorwrx	1993	1.0	1	0	0123 16:39	None	Remove
dm_scam	1	1.0	vektorwrx	vektorwrx	1993	1.0	1	0	0123 16:39	None	Remove
dm_scam	1	1.0	vektorwrx	vektorwrx	1993	1.0	1	0	0123 16:39	None	Remove
dm_scam	1	1.0	vektorwrx	vektorwrx	1993	1.0	1	0	0123 16:39	None	Remove
fundamentals	2	2021	vektorwrx	vektorwrx	0	2021	1	0	0122 13:30	0124 00:00	Remove
fundamentals	2	2021	vektorwrx	vektorwrx	4988	2021	1	0	0123 16:11	None	Remove
fundamentals	2	2021	vektorwrx	vektorwrx	1993	2021	1	0	0123 16:39	None	Remove
spotlight	3	2021	vektorwrx	vektorwrx	0	2021	1	0	0122 13:30	0124 00:00	Remove
spotlight	3	2021	vektorwrx	vektorwrx	4988	2021	1	0	0123 16:11	None	Remove
spotlight	3	2021	vektorwrx	vektorwrx	1993	2021	1	0	0123 16:39	None	Remove
archtcd	4	2021	vektorwrx	vektorwrx	0	2021	1	0	0122 13:30	0124 00:00	Remove
archtcd	4	2021	vektorwrx	vektorwrx	4988	2021	1	0	0123 16:11	None	Remove
archtcd	4	2021	vektorwrx	vektorwrx	1993	2021	1	0	0123 16:39	None	Remove
landmark	5	2021	vektorwrx	vektorwrx	0	2021	1	0	0122 13:30	0124 00:00	Remove
landmark	5	2021	vektorwrx	vektorwrx	4988	2021	1	0	0123 16:11	None	Remove
landmark	5	2021	vektorwrx	vektorwrx	1993	2021	1	0	0123 16:39	None	Remove
renderworks	6	2021	vektorwrx	vektorwrx	0	2021	1	0	0122 13:30	0124 00:00	Remove
renderworks	6	2021	vektorwrx	vektorwrx	4988	2021	1	0	0123 16:11	None	Remove
renderworks	6	2021	vektorwrx	vektorwrx	1993	2021	1	0	0123 16:39	None	Remove

パラメータ	説明
Product (プロダクト)	モジュール名です。
Pool (プール)	プール番号です。
Ver (バージョン)	製品バージョンです。
User (ユーザー)	ユーザー名を表示します。
host (ホスト)	ライセンスを使用しているホスト名を表示します。
PID (プロダクト ID)	プロダクトIDを表示します。
reqver (リクエストバージョン)	クライアントが要求したVectorworksのバージョンです。

# lic (#ライセンス)	各ユーザーが使用しているライセンスの数を表示します。
# res (#リザーブド)	予約されたライセンスの数を表示します。
Out time (アウトタイム)	ライセンスの使用開始日時を表示します。
In (hold) time (イン(ホールド)タイム)	(ライセンスを持ち出している場合に) ライセンスの返却予定日を表示します。
Click to REMOVE (クリックトゥリムーブ)	<p>使用中のライセンスをライセンス管理ソフトウェアに返却します。この操作はネットワーク接続しているライセンスに対して有効です。持ち出し中のライセンスに対しては動作しません。</p> <p><u>サーバー起動オプション</u>で <code>rlmdown command disabled</code> を設定して Windows サービスをインストールしている場合、このボタンは表示されません。</p>

.....

サーバー管理画面

サーバー稼動状況ログ

レポートログファイルは、サーバーで使用できるライセンス関連の統計データを含むテキストファイルです。モジュールごとの利用状況など、デバッグログより詳しい履歴情報が含まれています。利用統計を取るのに有効です。

デバッグログは、サーバーコマンドの全データをファイルに書き出します。デバッグログは、ISVサーバーのログ（ライセンス関連のログデータ）で構成されています。サーバーの不具合に関する情報も含まれています。

デバッグログのOUTはクライアントがライセンスを使用中であることを示し、INはクライアントソフトウェアが終了して、ライセンスがサーバーに返却されたことを示します。

.....

レポートログ
デバッグログ

レポートログ

レポートログでサーバーの統計情報を取得します。レポートログには任意の名前を付けて、サーバーマシンの任意の場所に置くことができます。ただし、事前にフォルダを作成しておく必要があります。ログの種類を、detailed、standard (std)、またはsmallに設定できます。種類を指定しない場合は、standardログが作成されます。standardでは、一般的なクライアン

トのライセンス情報が一覧表示されます。smallには最小限のライセンス接続情報のみが含まれ、detailedにはクライアントのOSや日付などの詳細が含まれます。ログをLog File Converter（ログファイルコンバータ）と共に使用して、さらなるデータ解析を行うには、stdまたはdetailedを選択します。

ライセンス管理ソフトウェアのシステムメニューで履歴／ログ > 使用履歴を表示を選択すると、使用履歴がグラフィック表示されます。

レポートログの設定

インストール時にレポートログが作成されます。デフォルトではProgram Dataフォルダに保存されます。

レポートログを開くには：

1. ライセンス管理ソフトウェアのシステムメニューで、履歴／ログ > レポートログを表示を選択します。

あるいは、管理画面のStatusをクリックします。OPTIONS列のvektorwrxをクリックします。

Edit ISV Options画面が表示されます。

ISV Servers										
Name	port	Running	Restarts	Server Status	License Usage	Debug Log	REREAD	OPTIONS	TRANSFER	SHUTDOWN
vektorwrx	48213	Yes	1	vektorwrx	vektorwrx	vektorwrx	vektorwrx	vektorwrx	vektorwrx	vektorwrx



Edit ISV Options

This form edits the ISV options. When you are finished, select "Update Options" if you want to save your changes on the server. Select "Cancel" if you want to discard your changes. If you want the server to use these options immediately, select "REREAD/RESTART" for this ISV on the status page.
NOTE: The options file is NOT LOCKED while you are doing this edit, so if more than one user updates the file, one set of changes will be lost.

ISV "vektorwrx" has no options file, creating it now

ISV vektorwrx Options

Update Options

Cancel

2. ISV vektorwrx Options フィールドに以下のコマンドを入力します。

コマンド	説明	構文
------	----	----

REPORTLOG (レポート ログ)	レポートログ (small、std、またはdetailed) の場所、ファイル名、形式、種類を設定します。ファイルパスは相対パスでも絶対パスでも指定できます。相対パスを使用する場合、現在のフォルダはライセンス管理ソフトウェアのインストールフォルダです。	REPORTLOG_`ファイルパスファイル名`_出力の種類 Windowsでの例：REPORTLOG_`C:\My_Reports\Reportlog.txt`_detailed Macでの例：REPORTLOG_`My Reports/Reportlog.txt`_std
	構文に+を追加すると、既存のログファイルは上書きされません。	REPORTLOG_`+ファイルパスファイル名`_出力の種類

3. **Update Options** ボタンをクリックします。
4. vektorwrx options file written. というメッセージが表示されます。 **Back to Status** ボタンをクリックして、ステータス画面に戻ります。
5. **Reread / Restart Servers** をクリックして、ISVサーバーを再起動します。ISVサーバーを再起動すると、指定した場所にログファイルが作成されます。

RLMサーバーを再起動すると、既存のログファイルが上書きされます。RLMサーバーを再起動する前にログファイルのバックアップを作成するか、またはREPORTLOG構文に+を追加してログファイルが上書きされないようにします。

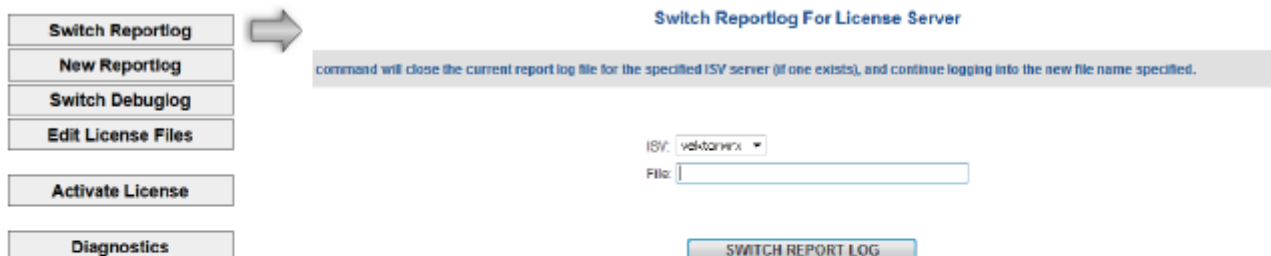
RLMオプションを設定して、レポートログにライセンスのチェックイン、チェックアウト、拒否を記録するかどうかを制御できます。[RLMオプションを制御する](#)を参照してください。

別のレポートログファイルに切り替える

使用中のレポートログから、別のログファイルを指定して切り替えることができます。レポートログを切り替えるには、新しいレポートログを事前に用意しておく必要があります。

1. 管理画面の**Switch Reportlog** をクリックします。

Switch Reportlog For License Server画面が表示されます。



2. ISVリストで**vektorwrx**を選択します。

3. **File**に、ログが置かれているファイルパスをファイル名を含めて入力します。
4. **SWITCH REPORT LOG**ボタンをクリックします。

レポートログが別のファイルに切り替わります。

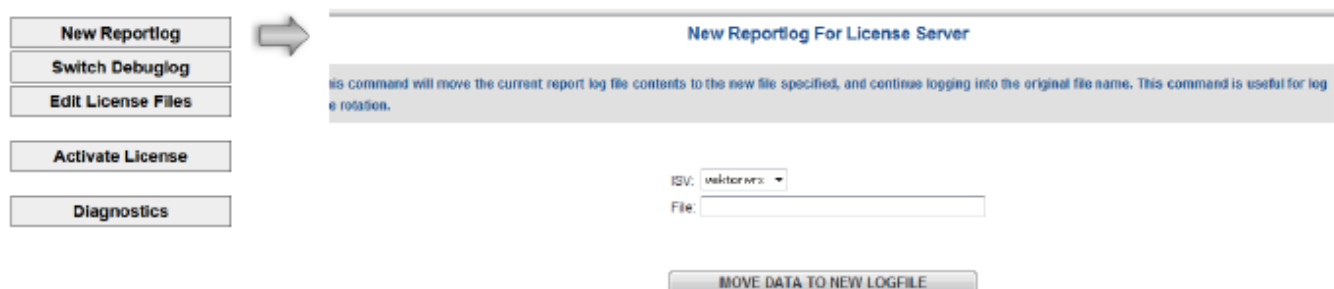
新規レポートログを作成する

現在出力中のレポートログファイルを別名保存し、元のファイルでログ取得を続けることができます。バックアップファイルを作成するのに便利です。

ROTATE コマンドは、バックアップのログファイルを自動的に作成します。運用状況によっては、ログファイル容量が増える可能性があります。定期的にバックアップすると、ファイルの容量を抑えることができます。詳細は[サーバーオプションを指定する](#)を参照してください。

1. 管理画面の**New Reportlog**をクリックします。

New Reportlog For License Server画面が表示されます。



2. ISVリストで**vektorwrx**を選択します。
3. **File**に、バックアップログを置くファイルパスをファイル名を含めて入力します。
4. **MOVE DATA TO NEW LOGFILE**ボタンをクリックします。

現在のレポートログファイルの内容が、指定したバックアップログに保存されます。また、現在のレポートログにログ内容の記述が続けられます。

レポートログ情報を使用して統計分析を行う

レポートログはテキストファイルで作成されますが、ファイルコンバータユーティリティの Log File Converterを使用して、Excel形式に変換できます。

ログファイルを変換すると、割り当てられた期間内に実行されている各製品のライセンス数を確認したり、サーバーの統計情報に関する計算を行ったりできます。こうした情報は、管理者にとって有益な基準データとなります。

レポートログを変換するには：

1. LogFileConverterを参照します。

Windowsでは、Log File Converterはライセンス管理ソフトウェアのフォルダ内に置かれています。Macでは、Log File Converterはパッケージファイル内に置かれています。ファイルを右クリックして**パッケージの内容を表示**を選択し、**Contents>MacOS**に移動してLogFileConverter.appを探します。

2. Log File Converter.app (Mac) またはLogFileConverter.exe (Windows) をダブルクリックします。

Log File Converterユーティリティが開きます。

3. **Select log file**をクリックして、RLM log fileダイアログボックスを開きます。レポートログファイルを指定します。
4. **Save excel file**をクリックして、Excel fileダイアログボックスを開きます。変換したファイルを保存する場所とファイル名を指定します。
5. **Convert**ボタンをクリックして、テキストファイルを、Excelなど一般的なスプレッドシートプログラムで使用できるファイルに変換します。
6. 変換が完了したら、**Quit**ボタンをクリックしてLog File Converterを閉じます。

作成されたExcelファイルを開いて、グラフの作成やさまざまな解析に使用できます。

	Date	Version	Product	Seats	0:00 - 1:00	1:00 - 2:00	2:00 - 3:00	3:00 - 4:00	4:00 - 5:00	5:00 - 6:00	6:00 - 7:00	7:00 - 8:00	8:00 - 9:00	9:00 - 10:00
1	09/05/2021	14:41:45												
2	09/05/2021	2021	architect	2	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
3	09/05/2021	2021	designer	2	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
4	09/05/2021	2021	fundamentals	2	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
5	09/05/2021	2021	renderworks	2	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*

変換されたスプレッドシートファイルには、次の情報が含まれています。

パラメータ	説明
Date	統計が生成された日付です。
Version	Vectorworksのバージョンです。
Product	Vectorworksのモジュール名です。
Seats	モジュールごとに使用可能なライセンスの数です。
(時刻表示)	<p>クライアントが起動すると、使用中のライセンス数が増加します。このパラメータには、時間帯ごとに使用されているライセンスの最大数が表示されます。</p> <p>1日の途中でライセンスを更新し、特定のモジュールが利用できなくなると、使用できない時間帯はアスタリスク (*) で示されます。翌日の統計値には表示されません。</p> <p>1日の途中でライセンス数を変更すると、その日の終わり（日付が変わる時点）に新しい値が反映されます。</p>
Borrow	1日の終わり（日付が変わる時点）に持ち出されているライセンスの数を表示します。

デバッグログ

デバッグログには設定が記載されており、サーバーの起動で起こるすべてのイベントや、サーバーおよび環境に関するその他の情報を記録します。問題が発生した際の解決のヒントになります。インストール時にデバッグログが自動的に作成されます。デフォルトでは Program Data フォルダに保存されます。

デバッグログを開く

ライセンス管理ソフトウェアのシステムメニューで、履歴／ログ > 使用履歴を表示を選択します。

あるいは、Status画面でSHOW rlm Debug Logをクリックします。

別のデバッグログファイルに切り替える

デバッグログを作成したら、サーバーを終了せずに、使用中のデバッグログから別のログファイルを指定して切り替えることができます。

デバッグログのデータを記録するには、最初にコマンドプロンプトまたはターミナルでログを作成する必要があります。

1. 管理画面のSwitch Debuglogをクリックします。

Swich Debug Log For License Server画面が表示されます。



2. ISVリストでvektorwrxを選択します。
3. Fileに、ログが置かれているファイルパスをファイル名を含めて入力します。
4. SWITCH DEBUG LOGボタンをクリックします。

デバッグログが別のファイルに切り替わります。

ポート番号を変更する

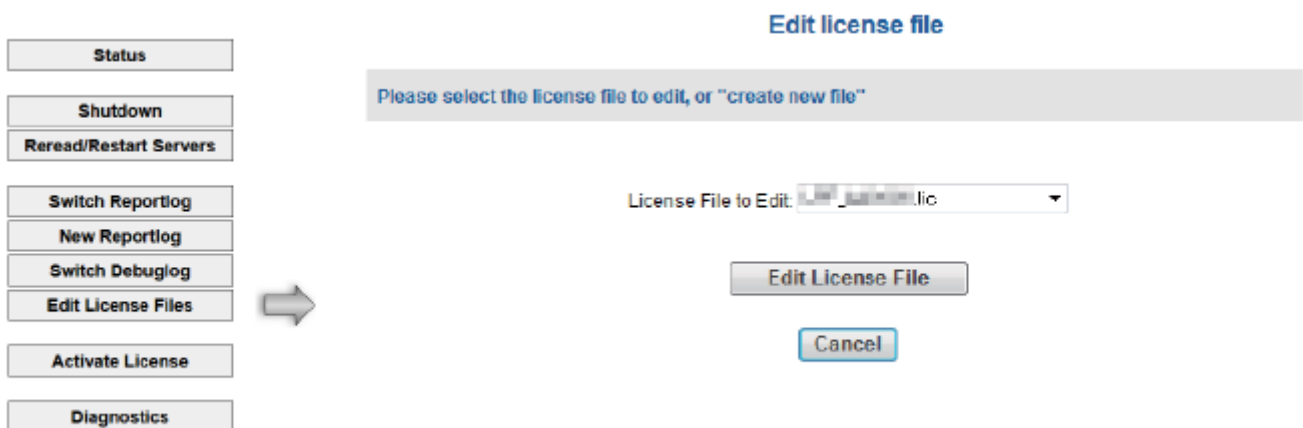
サーバーのポート番号を変更する

まれに、ライセンス管理ソフトウェアで使用するポート番号を変更する必要があります。たとえば、別のアプリケーションですでにデフォルトのポート番号を使用していることがあります。ポート番号はインストール時に簡単に変更できます。これを行わなかった場合は、ライセンスファイル (.lic) を編集してポート番号を変更してください。

ライセンスファイルの編集には、十分な注意が必要です。

1. 管理画面の **Edit License Files** をクリックします。

Edit license file画面が表示されます。



2. **License File to Edit** リストで、編集したいライセンスファイルを選択します。
3. **Edit License File** ボタンをクリックします。

Edit license file画面が表示されます。以下に、ライセンスファイルの例を示します。

```
HOST localhost hasp4=XXXXXX (dongle ID) 5053
ISV vektorwrx
LICENSE vektorwrx fundamentals 2021 permanent 6 issued=22-oct-2020
options=model=floating_ck=xxxxxxx sig="xxxxxxxxxxxxxxxxxxx"
```

- **5053** : RLMサーバーのポート番号です。デフォルト値は5053です。クライアントとの接続に必要なポートです。
- **ISVvektorwrx**: 内部的に使用しているISVサーバーのポート番号を指定するパラメータです。デフォルト設定では空いているポートを自動的に割り当てます。

4. ポート番号を変更するには、以下を入力します。 `ISVvektorwrlexport=nnnn` (nnnnは希望するポート番号)

他の箇所は編集しないでください。ライセンス管理ソフトウェアが起動しなくなる恐れがあります。

5. **Update License File** ボタンをクリックして、変更した内容を保存します。
6. ライセンス管理ソフトウェアを再起動します。 [RLMサーバーを終了する](#) を参照してください。

バージョンアップした場合、または Fundamentals ライセンスやプラグインモジュール (Renderworks、Architectモジュール、Landmark モジュール、Spotlight モジュール、Designerモジュール) を追加購入した場合などは、古いライセンスファイルを削除し、新しく入手したライセンスファイルと入れ替えてから、必要に応じて適宜編集してご利用ください。

ライセンスファイルの置き換えを行う場合は、以下にご注意ください。

* ライセンスの持ち出し中はライセンス条件を変更できません。持ち出されているライセンスをすべて一旦回収してから (返却させてから)、作業を行ってください。

管理画面のポート番号を変更する

管理画面にはブラウザでアクセスし、デフォルトのポート番号5054を通じて情報が表示されます。ポート番号5054がすでに別のアプリケーションに割り当てられているか、他に何らかの理由がある場合は、デフォルトのポート番号を変更できます。

Windowsサービスで起動する場合 (Windows) は、サービス設定でポートを変更できます。詳細は[Windowsサービスを停止する](#)を参照してください。

1. ライセンス管理ソフトウェアを終了します。 [RLMサーバーを終了する](#) を参照してください。
2. コマンドプロンプト (Windows) またはターミナル (Mac) を起動します。
3. ライセンス管理ソフトウェアのフォルダ (Windows) または/Library/PrivilegedHelperTools/com.vectorworks.rlm (Mac) に移動します。
4. 下記のコマンドを入力してEnterキーを押し、新しいポート名でRLMサーバーを再起動します。

Windows : `rlm.exe -ws nnnn` (nnnnはポート番号)

Mac : `./rlm -ws nnnn` (nnnnはポート番号)

この起動オプションは、サーバーを起動するたびに指定する必要があります。

.....

[サーバー管理画面](#)

[サーバー起動オプション](#)

ライセンス管理ソフトウェアを終了する

ISVおよびRLMサーバーを終了する最も便利な方法は、ライセンス管理ソフトウェアのシステムメニューのコントロールコマンドで操作することです。または、管理画面の**Reread / Restart Servers**をクリックします。

RLMサーバーとISVサーバーは、別の方法で個別に終了できます。通常、終了および再起動する可能性があるのは、ISVサーバーだけです。

動作に問題があるなど、完全に終了する場合は、ISVサーバーを終了させた後にRLMサーバーを終了させてください。

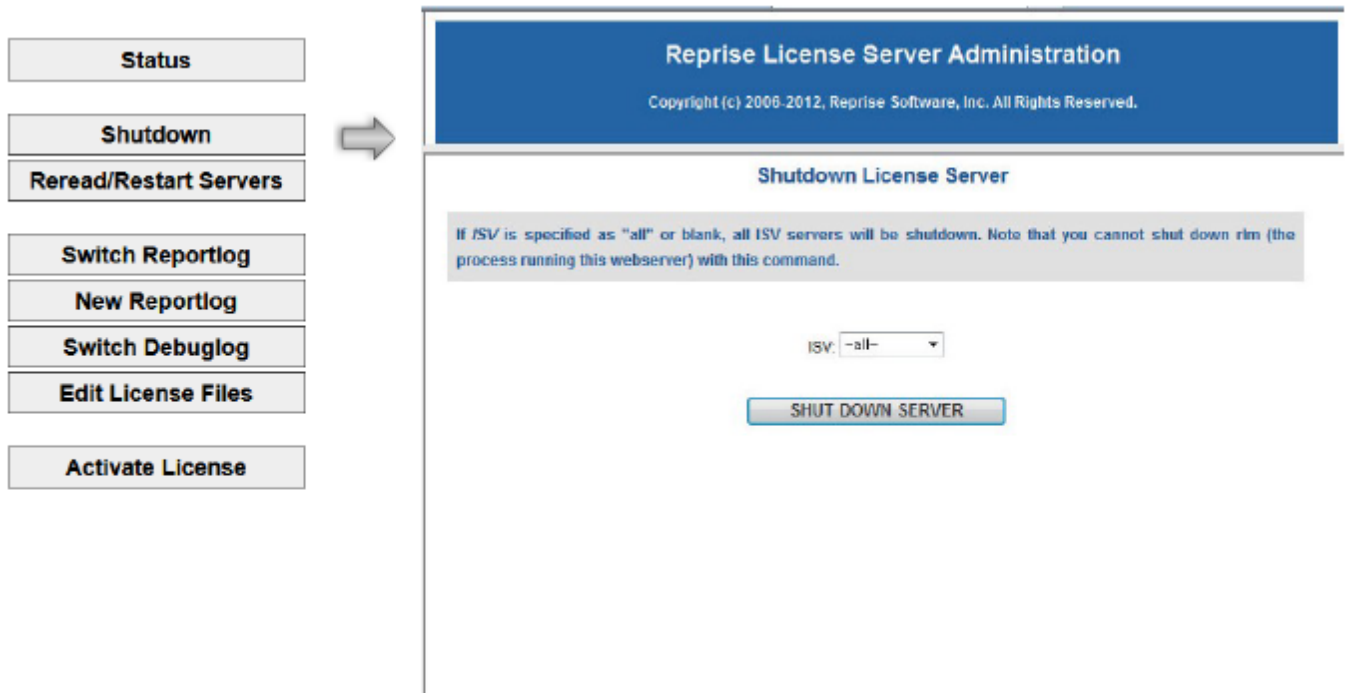
Vectorworks クライアントはサーバーに定期的に（10 秒間隔で）自動接続し、接続確認を行います。サーバーが起動していない場合は、接続に失敗したことがクライアントに通知されます。開いているすべてのファイルを保存した後、Vectorworks製品が自動的に終了します。モジュールまたはライセンスを持ち出し中の場合は、ISVサーバーを終了しても持ち出し中のクライアントには影響しません。ただし、ISVサーバーが起動していないと、持ち出し期限前にライセンスを返却できません。

.....
ISVサーバーを終了する
RLMサーバーを終了する

ISVサーバーを終了する

ISVサーバーを終了するには：

1. ライセンス管理ソフトウェアのシステムメニューで、**Control > Stop**を選択します。
または、管理画面の**Shutdown**をクリックします。
Shutdown License Server画面が表示されます。



2. **SHUT DOWN SERVER**ボタンをクリックします。ISVサーバーが終了します。

終了後も、管理画面からさまざまなタスクを行うことができます。

ISVサーバーを再起動する

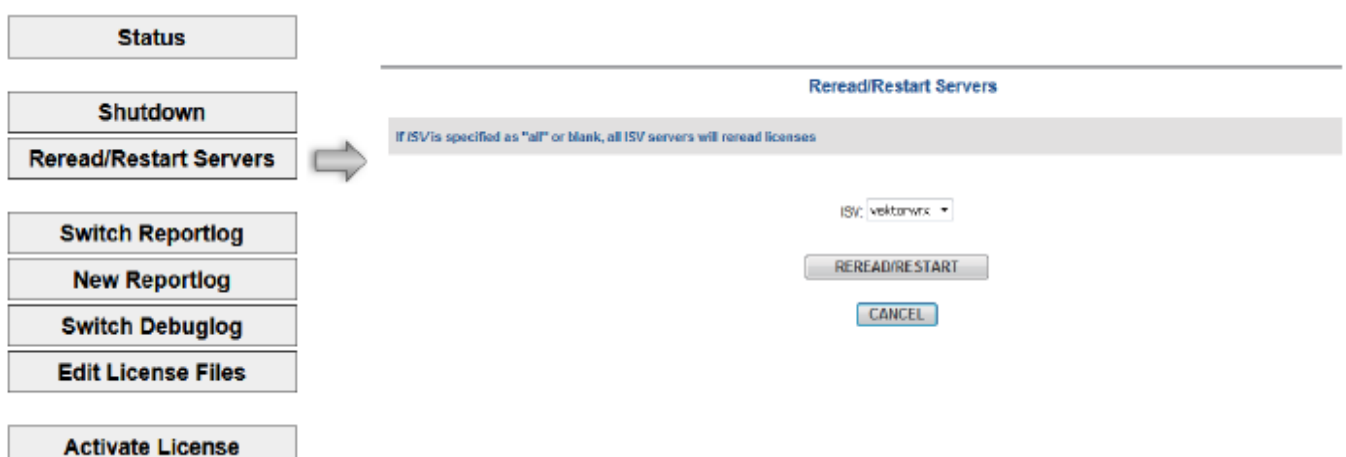
ライセンスファイルが変更されたか、オプションが追加または削除された場合は、ライセンスファイルを再読み込みしてオプションを更新できます。ISVサーバーを終了した場合は、再起動できます。

ISVサーバーは、毎日深夜0時にすべてのライセンスファイルを自動的に再読み込みします。

現在のライセンス情報を再読み込みするか、またはISVサーバーを再起動するには：

1. ライセンス管理ソフトウェアのシステムメニューで、**Control>Restart**を選択します。
または、管理画面の**Reread/Restart Servers**をクリックします。

Reread/Restart Servers画面が表示されます。



2. ISVドロップダウンリストで「vektorwrx」を選択し、**REREAD**／**RESTART**ボタンをクリックします。

ISVサーバーが実行中の場合は、ライセンス情報を再読み込みします。ISVサーバーを終了した場合は、再起動されます（この時にライセンスファイルが再読み込みされます）。

ISVドロップダウンリストで「-all」を選択すると、ライセンス管理ソフトウェアだけでなく、Reprise License Managerで管理しているすべてのソフトウェアが再起動されます。

.....
RLMサーバーを終了する

RLMサーバーを終了する

ISVおよびRLMサーバーを終了する最も便利な方法は、ライセンス管理ソフトウェアのシステムメニューのコントロールコマンドで操作することです。あるいは、以下の手順に従います。

通常、RLMサーバーを終了する必要はありません。システムが不安定な場合にのみ終了してください。

最初にISVサーバーを終了します。

Mac

ターミナルウィンドウがアクティブの場合は、ウィンドウ上でCtrl + Cキーを押すとプロセスが終了します。その他、アクティビティモニタを利用して終了することもできます。

アクティビティモニタを利用してRLMサーバーを終了させるには：

1. ISVサーバーを終了します。
2. **アプリケーション**>**ユーティリティ**を選択して、アクティビティモニタを起動します。



3. プロセスリストでrlmを選択します。
4. プロセスの終了をクリックします。終了したいプロセスを確認して、終了をクリックします。

Windows

サーバーをWindowsサービスに登録してインストールした場合は、[Windowsサービスを停止する](#)を参照して、Windowsサービスを終了します。

ライセンスサーバーをWindowsサービスに登録してインストールしていない場合は、DOSプロンプト上でCtrl + Cキーを押すとプロセスが終了し、プロンプト画面が閉じます。

デバッグログの作成時またはポート番号の変更時にコマンドプロンプトでサーバーを起動した場合は、タスクマネージャに移動してプロセスを終了するか、コマンドプロンプトで次のコマンドを実行してプロセスを終了します。

```
./rlmutil rlmdown RLM
```

RLMサーバーを再起動する

ISVおよびRLMサーバーを終了する最も便利な方法は、[コントロール ライセンス管理ソフトウェアのシステムメニュー](#)から操作することです。あるいは、以下の手順に従います。

RLMサーバーを終了した場合は、必要に応じてサーバーマシンを再起動します。

ライセンス管理ソフトウェアをWindowsサービスに登録するか、デーモンとしてインストールした場合は、自動的に再起動されます。

コマンドプロンプトまたはターミナルで、ライセンス管理ソフトウェアのフォルダ (Windows) または/Library/PrivilegedHelperTools/com.vectorworks.rlmフォルダ (Mac) に移動して以下のコマンドを実行し、サーバーを起動することもできます。

Windows : rlm.exe -c "C:\ProgramData\Vectorworks Site Protection"

Mac : sudo /Library/PrivilegedHelperTools/com.vectorworks.rlm/rlm -c "/Library/Application Support/Vectorworks Site Protection/"

この方法では、起動時にオプションを設定できます。[サーバー起動オプション](#)を参照してください。Windowsでは、この方法でスタンドアロンのプログラムとして起動した場合、ソフトウェアの実行中は、コマンドプロンプトを開いたままにしておく必要があります。Macでは、ターミナルを閉じることができます。

.....

[サーバー起動オプション](#)

[Windowsサービスの設定](#)

[ISVサーバーを終了する](#)

[サーバー管理画面](#)

サーバー起動オプション

ISVおよびRLMサーバーを終了する最も便利な方法は、[コントロール ライセンス管理ソフトウェアのシステムメニュー](#)から操作することです。あるいは、以下の手順に従います。

通常、サーバー管理者はブラウザのインターフェイスを使用してサーバーコマンドにアクセスし、サーバーオプションを設定します。一部のコマンドは、起動時にコマンドプロンプトのオプションで設定することもできます。あまり使わないごく少数のコマンドはこの方法でのみ設定でき、ブラウザのインターフェイスには該当するパラメータがありません。

ブラウザで設定できないコマンドの場合は、コマンドプロンプトまたはターミナルにコマンドを入力する代わりに、Windowsではショートカットを作成し、プロパティのリンク先のパスにオプションコマンドを追記して指定できます。Macではbashスクリプトを作成し、指定できます。

設定オプションを指定するには：

1. ライセンス管理ソフトウェアを終了します。[RLMサーバーを終了する](#)を参照してください。
2. コマンドプロンプト（Windows）またはターミナル（Mac）を起動します。
3. ライセンス管理ソフトウェアのフォルダ（Windows）または/Library/PrivilegedHelperTools/com.vectorworks.rlmフォルダ（Mac）に移動します。
4. 起動コマンドに続いてダッシュとオプション名を入力し、Enterキーを押して、RLMサーバーを再起動します。

Windows：`rlm.exe -オプションコマンド`

Mac：`./rlm -option_command`

有効にするには、サーバーを起動するたびに起動オプションを指定する必要があります。

この表の例では、主にWindowsの`rlm.exe`を使用しています。Macの場合は`./rlm`を使用してください。

起動オプション	説明	例
---------	----	---

<p>-c_ライセンスファイル</p>	<p>使用するライセンスファイル (.lic) を指定します (通常は、すべてのライセンスファイルを使用します)。フォルダ名を指定して、そのフォルダ内のすべてのライセンスを使用することもできます。</p>	<pre>rlm.exe_-c_ABCD1234.lic</pre>
<p>-c_フォルダ名</p>	<p>すべてのライセンスを使用しない場合は、使用するライセンスファイルをフォルダ内に置き、オプションにフォルダ名を入力します。それらのライセンスのみが使用されます。</p>	<pre>rlm.exe_-c_licenses rlm.exe_-c_"C:\ProgramData\Vectorworks_Site_Protection"</pre>
<p>-dlog_ファイルパス_ファイル名</p>	<p>デバッグログの場所とファイル名を設定します。ファイルパスは、相対パスでも絶対パスでも指定できます。相対パスを使用する場合、現在のフォルダはライセンス管理ソフトウェアのインストールフォルダです。再起動時、デバッグログは上書きされます。</p> <p>ブラウザのインターフェイス (Windows) でも使用できます。 <u>デバッグログを参照してください</u>。</p>	<p>Windowsでの例： rlm.exe_-dlog_`Log\dlog.txt`</p> <p>Macでの例： ./rlm_-dlog_`Log/dlog.txt`</p>
<p>-dlog+_ファイルパス_ファイル名</p>	<p>上述の手順でデバッグログを作成します。オプションに「+」を追加すると、再起動時に上書きすることなく、ログに自動的にデータが追加されます。</p> <p>ブラウザのインターフェイスでも使用できます。 <u>サーバーオプションを指定する</u> を参照してください。</p>	<pre>rlm.exe_-dlog+_`Log\dlog.txt`</pre>
<p>-nows</p>	<p>サーバーがブラウザのインターフェイスに表示されないようにします。すべてのコマンドは、コマンドプロンプトまたはターミナルで実行する必要があります。</p>	<pre>rlm.exe_-nows</pre>

	<p>ブラウザのインターフェイスを再び有効にするには、-nowsオプションなしでサーバーを再起動します。</p>	
-ws_ポート番号	<p>管理画面のポート番号を変更します。管理画面のポート番号を変更するを参照してください。</p>	<pre>rlm.exe_-ws_5056</pre>
-x_rlmdown -x_rlmremove	<p>rlmdownとrlmremoveコマンドを無効にするかどうかを制御します。rlmdownコマンドを無効にすると、ISVサーバーを終了できなくなります。rlmremoveコマンドを無効にすると、クライアントが使用しているライセンスを削除するオプションが無効になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • -xは両方のコマンドを無効にします。 • -x_rlmdown • -x_rlmremove 	<pre>-x_rlmdown</pre>
-install_service_ サービス名 (Windows)	<p>サーバーソフトウェアをWindowsサービスとして登録します。サービス名を入力します。これは、サーバーマシン上にブラウザがなくてもサーバーソフトウェアを自動的に起動させたい場合に便利です。</p> <p>ブラウザのインターフェイスでも使用できます。Windowsサービスを停止するを参照してください。</p>	<pre>-install_service_rlm</pre>
-isv_startup_delay	<p>ISVサーバーの起動時間を、指定した秒数だけ遅らせます。これにより、IPアドレスを取得してライセンスを確認する時間を確保できるほか、ドングルドライバーを参照する時間も確保できます。</p> <p>この時間の遅延はインストール時に指定でき、実際</p>	<pre>-isv_startup_delay_10</pre>

	に指定することが推奨されています。デフォルト値は60秒です。	
-v	RLMサーバーを起動し、バージョン番号をコマンドプロンプトにプリントして、終了します。 ブラウザのインターフェイスでも使用できます。管理画面の System Info をクリックします。	-v
-info	過去24時間にサーバーマシンで実行されていたすべてのRLMコピーに関する情報をプリントして、終了します。 ブラウザのインターフェイスでも使用できます。管理画面の System Info をクリックします。	-info

.....

- [Windowsサービスの設定](#)
- [サーバーのパスワードを設定する](#)
- [RLMオプションを制御する](#)

サーバーのパスワードを設定する

ライセンス管理ソフトウェアのシステムメニューで、**コントロール>サーバー管理ログインアカウントの設定**を選択します。

あるいは、rlm.exeが置かれているのと同じフォルダ（通常はライセンス管理ソフトウェアのフォルダ（Windows）または/Library/PrivilegedHelperTools/com.vectorworks.rlmフォルダ（Mac））にパスワードファイル`rlm.pw`を追加すると、RLMブラウザのインターフェイスへのアクセスを制御できます。このファイルがある場合は、さまざまなタスクでユーザー名とパスワードが必要になります。

または、管理画面の**Reread / Restart Servers**をクリックします。

パスワードファイルのパスワード設定は、ユーザー名、パスワード、許可された権限で構成され、コロンで区切ります。許可された権限が複数ある場合は、カンマで区切ります。

username:password:remove, _編集オプション

空のパスワードでパスワードファイルを設定して、個々のユーザーが後でブラウザのインターフェイスで変更できるようにします。以下に例を示します。

lauren::shutdown, _remove

以下の表では、割り当て可能な権限を一覧表示しています。

権限	説明
all	すべての権限を有効にします。
edit_meter	本ソフトウェアでは使用できません。
edit_options	ISVオプションを設定できます。
edit_rlm_options	ライセンスファイルとrlmサーバーオプションファイルを編集できます。
edit_xfer	本ソフトウェアでは使用できません。
logfiles	レポートログおよびデバッグログのさまざまなログファイル機能（新規ログファイルの作成、ログファイルの切り替え）を有効にします。
remove	Vectorworksプログラムを実行中のクライアントからライセンスを削除して、クライアントを終了します。
reread	ライセンスファイルを再読み込みします。
shutdown	ライセンスサーバーを終了します。
status	ライセンスに関するステータスおよびデバッグログ情報を表示します。

パスワードファイルの個別のユーザーに権限を割り当てるだけでなく、RLMオプションファイルのグループ、マシン、IPアドレスを指定して、この表に記載されている権限をそれらのグループに適用できます。以下に例を示します。

EXCLUDE_shutdown_group_architects

詳細は[RLMオプションを制御する](#)を参照してください。

.....

[RLMオプションを制御する](#)
[Windowsサービスの設定](#)
[ISVサーバーの各画面](#)

RLMオプションを制御する

ISVサーバーがVectorworksプログラムのライセンスに関する特定の機能を管理するのに対し、RLMサーバーはライセンス管理のコア機能処理します。[サーバーオプションを指定する](#)のセクションでは、ユーザー、コンピューター、IPアドレスのグループを作成して、Vectorworks固有のISV権限を割り当てる方法を詳細に説明しています。このセクションでは、RLMオプションを通じてグループに権限を割り当てる類似の方法について説明します。

割り当てまたは制限できる権限は、[サーバーのパスワードを設定する](#)で定義しています。

ユーザーまたはグループに割り当てる権限を指定して編集するには：

1. 管理画面で**Status**をクリックします。
サーバーステータスペインが表示されます。
2. **EDIT rlm Options**ボタンをクリックします。
Edit RLM Options画面が表示されます。
3. [サーバー構文](#)で説明している構文を使用して、rlmオプションを指定または編集します。

構文と例では、クライアントまたはクライアントグループの権限を設定するにあたり、ユーザー、ホスト、インターネット、グループ、ホストグループ、インターネットグループの区別なく指定できます。

コマンド	説明	構文
Excludeall	特定のクライアントの権限を一切許可しません。	EXCLUDEALL_group_グループ名 例：EXCLUDEALL_group_interns
Exclude	クライアントに対し、指定した権限を制限します。	EXCLUDE_権限_ユーザー名 例：EXCLUDE_remove_name_sam
Includeall	特定のクライアントに対し、すべての権限の使用を許可します。	INCLUDEALL_ホストグループ_グループ名 例：INCLUDEALL_status_host_group_IT
Include	クライアントの権限を指定します。	INCLUDE_権限_internet_IPアドレス 例： INCLUDE_shutdown_Internet_172.67.94.13

4. **Update Options**ボタンをクリックします。

オプションは、RLMソフトウェアと同じネットワークライセンスフォルダに置かれているrlm.optファイルに保存されます。

デバッグログ

Windowsサービスの設定

Windows環境では、ライセンス管理ソフトウェアはWindowsサービスとしてインストールされます。この機能により、マシンを起動すると自動的にライセンス管理ソフトウェアは起動し、システムの実行中はライセンス管理ソフトウェアが稼働し続けます。

サービスを簡単に停止または開始できる方法として、システムメニューコマンドでコントロール > ストップまたはコントロール > スタートを選択することを推奨します。

ライセンス管理ソフトウェアはインストール時にWindowsサービスとして登録されるため、以下のオプションにより、ライセンス管理ソフトウェアをWindowsサービスとして停止または開始できます。

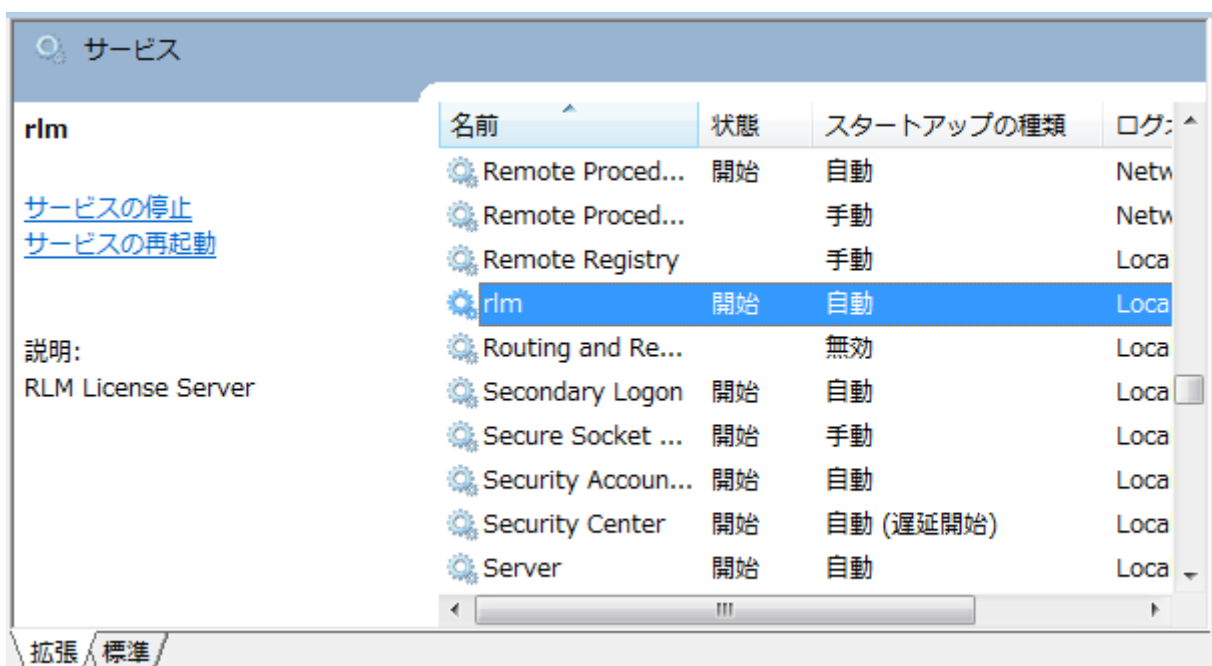
Windowsサービスを制御するには、管理者としてサーバーを起動する必要があります。

[Windowsサービスを停止する](#)

[Windowsサービスを再起動する](#)

Windowsサービスを停止する

1. [ISVサーバーを終了する](#)の手順に従い、ISVサーバーを終了させます。
2. Windowsのコントロールパネルを開きます。
3. サービスダイアログボックスに移動して、rlmを検索します。rlmをダブルクリックして、プロパティダイアログボックスを開きます。



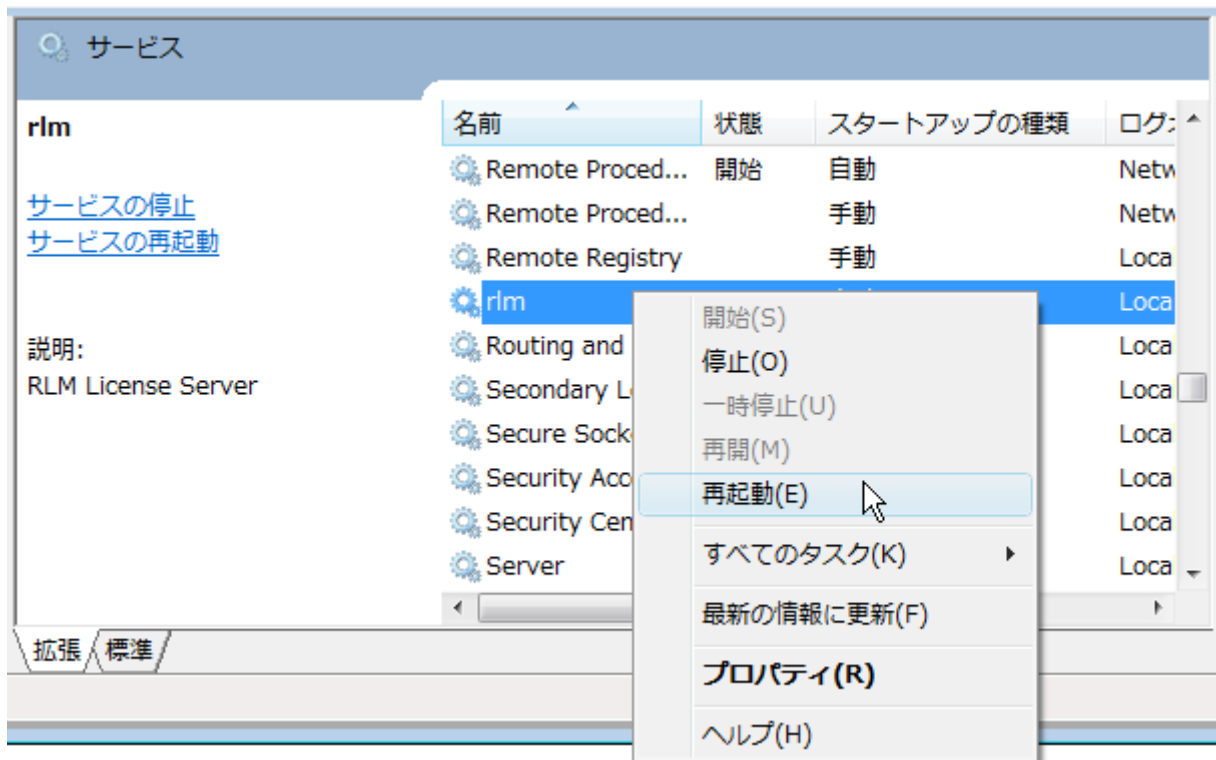
4. サービスの状態の**停止**ボタンをクリックするとサービスが停止します。



Windowsサービスの設定

Windowsサービスを再起動する

1. Windowsのコントロールパネルを開きます。
2. サービスダイアログボックスに移動して、rlmを右クリックします。
3. コンテキストメニューから再起動をクリックします。



ライセンス管理ソフトウェアの起動時にファイアウォールのブロックを解除するようにサービスを設定してください。

トラブルシューティング

このセクションでは、よくある問題や可能な解決策について説明します。その他お問い合わせの多い項目や最新情報については、テクニカルサポートデスクの製品別Q&Aページも併せてご覧ください：kbase.vectorworks.net

起動・認証時の確認事項

[クライアントまたはサーバーの問題](#)

[エラーメッセージ一覧](#)

起動・認証時の確認事項

以下では、サーバーまたはクライアントマシンの起動時や認証時のトラブルをまとめています。

- 管理者（Administrator）権限以外でログオンしていませんか？

ライセンス管理ソフトウェアのインストールと実行には、管理者権限が必要です。ユーザー権限などでログオンしている場合は、管理者権限でログオンし直してください。

- 必要なフォルダのアクセス権限に制限をかけていませんか？

システムを使用するには、以下のフォルダおよび任意のアカウントのVectorworksインストールフォルダで読み書き（フルコントロール）アクセスを有効にしておく必要があります：

Windows：C:\ProgramData\Vectorworks Site Protection

Mac：/Library/Application Support/Vectorworks Site Protection/

- サーバーとクライアントの間で、時刻設定にズレはありませんか？

サーバーとクライアントのタイムスタンプに大きなズレが生じている場合は、認証できません。

- サーバーライセンスファイルとクライアントログイン設定で、同じポート番号を設定していますか？

通常は、デフォルト値の5053を使用してください。

- ログイン設定ダイアログボックスで、正しいIPアドレスを入力していますか？

サーバーマシンのIPアドレスを確認し、必要に応じて正しいIPアドレスを入力してください。

- ウイルス対策ソフトウェアまたはオペレーティングシステムの設定がサーバーまたはクライアントと競合していませんか？

セキュリティソフトの設定を確認してください。場合によって、ファイアウォールの設定を調整する必要があります。

.....
クライアントまたはサーバーの問題
エラーメッセージ一覧

クライアントまたはサーバーの問題

状況：ライセンス管理ソフトウェアが起動しない。

- ドングルを使用している場合は、ドングルを接続し直し、ライトが点灯していることを確認してください。ライトが点灯していない場合は、別のUSBポートに挿入するか、サーバーマシンを再起動してみてください。
- 正しいライセンスファイルを使用していることを確認するには、**Vectorworks Site Protection**>**ライセンス**を選択します。ライセンスファイル名がLPF_XXXXXX.licという形式でリスト表示されます。XXXXXXは、シリアル番号の末尾6文字と一致している必要があります。一致していない場合は、ライセンスファイルを再度ダウンロードし、**Vectorworks Site Protection**>**ライセンス**>**ライセンスファイルを追加**を選択して、正しいライセンスファイルを追加します。
- ライセンスファイルが適切なフォルダに置かれていることを確認してください：

Windows：C:\ProgramData\Vectorworks Site Protection

Mac : /Library/Application Support/Vectorworks Site Protection/

- デバッグログから、サーバーの動作について何らかのヒントが得られることもあります。サーバーのステータスを確認して、ログのエラーメッセージをチェックしてください。デバッグログを参照してください。

状況：クライアントソフトウェアが起動しない。

- サーバー上の意図しないISVオプションでユーザーに制限がかかっていないことを確認してください。
- ログイン設定ダイアログボックスでポート番号を確認してください。通常、**サーバーを自動検出**にチェックが入っており、デフォルトのポート番号には5053が指定されています。サーバーとクライアントの間で、ポート番号が一致していることを確認してください。
- ファイアウォールがサーバーまたはクライアントの通信をブロックしていないことを確認してください。
- ネットワークが原因で認証に問題が生じることがあります。pingを使用してサーバーとクライアント間の接続を確認し、問題のある場合はネットワーク状況を再確認してください。
- サーバードマシンのIPアドレスを動的（DHCP）に設定していると、サーバーとクライアント間の接続に問題が生じることがあります。固定IPアドレスを使用してください。

状況：クライアントのVectorworksプログラムは終了しているが、ライセンスカウントが変わらない。

- ネットワーク接続の不具合や切断は、ライセンスカウントのエラーにつながることがあります。pingを使用してサーバーとクライアント間の接続を確認し、問題のある場合はネットワーク状況を再確認してください。ネットワークを避けてテストします。クライアントマシンとサーバーのみで構成されるシンプルなネットワークを一時的に設定します。
- ネットワークの切断後にクライアントソフトウェアが強制終了されたり、何らかの理由で終了の信号がサーバーに届かなかつたりした場合、ライセンスのカウントは一時的に誤った値になります。クライアントマシンのVectorworks製品を再起動して、適切に終了します。問題が解消されない場合は、サーバーを再起動します。

状況：製品モジュールやライセンスを追加したが、適切に動作していない。

- Vectorworks製品の起動時、ログイン設定ダイアログボックス内で**モジュール**ダイアログを表示させ、モジュール条件を変更して、Renderworksモジュール、Architectモジュール、Landmarkモジュール、Spotlightモジュール、Designerモジュールなどのモジュールを有効にしてください。
- 複数の異なるラインアップのプログラムがある場合は、クライアントマシン上で、ソフトウェアがVectorworksネットワーク版の正しいインストーラーを使用してインストールされたことを確認してください。

- サーバー上の意図しないISVオプションでユーザーに制限がかかっていないことを確認してください。
- 後でモジュールを追加した場合は、ライセンスファイルが更新されたことを確認してください。5053以外のポート番号を使用している場合は、更新後のライセンスファイルに正しいポート番号が記載されていることを確認してください。

状況：新しいクライアントライセンスが使用できない、またはライセンスカウントに含まれていない。

- ライセンスファイルは更新されていますか？
- 5053以外のポート番号を使用している場合は、更新後のライセンスファイルに正しいポート番号が記載されていることを確認してください。

状況：ファイアウォールを越えてライセンスを適用したい。

ファイアウォールを越えてライセンスを適用したい場合は、ファイアウォールにRLMおよびISVサーバーのポート番号を設定して、ポート越しにリクエストを通すようにします。

RLMサーバーは常に既知のポート番号を使用しており、この番号はライセンスファイル内のSERVERまたはHOST行で指定されています。

通常、RLMはすべてのISVサーバーを、起動前には不明なダイナミックポート番号で起動しますが、RLMがISVサーバーに固定のポート番号を割り当てるよう設定することは可能です。そのためには、ISV行でISVサーバーのポート番号を指定します。ポート番号はISV行で5番目のパラメータです。

ISV_ism名_ismバイナリパス名_オプションファイル名_ポート番号

ポート番号を指定するには、このISVサーバーのオプションファイルを指定しなければなりません。

ポート番号を指定したら、ファイアウォールに（RLM用の）SERVER行のポート番号とISV行のポート番号への接続を許可させます。

ポート番号を有効にするには、RLMを再起動します（ウェブインターフェイスまたはrlmreadを使用してISVサーバーを再起動しても、RLMは再起動されません）。

ISV行にあるオプションの「port=xxx」パラメータで、ISVサーバーのポート番号を指定することもできます。

ISV_ism名_binary=ismバイナリパス名_port=ポート番号

または

ISV_ism名_ismバイナリパス名_port=ポート番号

これらの方法を使用した場合は、ISVオプションファイルを指定する必要はありません。

エラーメッセージ一覧

ライセンス管理ソフトウェアのエラー

実行中のコマンドウィンドウやデバッグログに表示されます。

メッセージ：Could not access the license

ライセンスファイルが見つからないか、または破損しています。ライセンスファイルがあることを確認してください。必要に応じて、ライセンスファイルをパッケージからコピーし直してください。

メッセージ：Error in license count or hostid

不正なライセンスファイルがあります。残りのライセンスは正しく読み込まれています。ライセンスファイルをパッケージからコピーし直してください。

メッセージ：No license file for this host

- ライセンスファイルで、ホスト名が正しくない、または不正です。
- 複数のライセンスファイルがあり、そのすべてで不正なホスト名が設定されています。

ライセンスファイルが複数使われている場合は、すべてのライセンスファイルにホスト名が追加されます。ホスト名のうち1つにエラーがあるが他のホスト名が有効な場合は、有効なホスト名がすべてのライセンスに使われます。

このエラーを回避するには、すべてのライセンスファイルでlocalhostを使用してください。

メッセージ：License module list displays rlm_roam instead of modules

dongleで指定されているライセンスのみを読み込むことができます。dongleを接続し直し、ライトが点灯していることを確認してください。ライトが点灯していない場合は、別のUSBポートに挿入するか、サーバーを再起動してみてください。可能であれば、dongleが別のマシンで動作するかどうかを確認してください。

メッセージ：Duplicate license

サーバー上でライセンスが重複して見つかっています。重複しているライセンスを削除してください。

メッセージ：The following license has errors

サーバーがエラーの種類を特定しようとしています。影響を受けていないライセンスは読み込まれたままです。致命的なエラーがあるライセンスは読み込めません。最も可能性が高いのは、ISV、製品、またはバージョンに関するエラーです。ライセンス管理ソフトウェアを再インストールして、問題のあるライセンスを置き換えてください。

メッセージ：Port nnnn in use

サーバーマシンで、すでに他のアプリケーションなどがデフォルトのポート番号を使用しています。あるいは、ライセンス管理ソフトウェアとサービスが同時に起動されたか、またはポート番号が入力されていません。

通常、ポート番号が不正または不明であるか、ポートがビジー状態の場合は、デフォルトのポート番号が使われます。ただし、デフォルトのポート番号がすでに使用中の場合、サーバーはポートが空くまで待機します。

メッセージ：Cannot create log file

サーバーマシン上のログファイルへの書き込み中に、問題が発生しました。

- ログファイルの使用はオプションです。デフォルトでは、すべてのエラーはコマンドウィンドウに表示されます。
- サーバーマシンの動作状態をチェックし、管理者権限でログインしているかを確認してください。

メッセージ：Cannot set server lock; lockfile problems / Port 5053 in use; waiting / (rlm) Cannot bind Web Server port 5054

これらのメッセージはほぼ必ず、複数のライセンス管理ソフトウェアが同一マシン上にインストールされており、他のプログラムがすでに実行中であることを示しています。セキュリティ上の理由から、複数のライセンス管理ソフトウェアを同一マシン上で実行することはできません。また、ライセンス管理ソフトウェアとサービスを同時に起動することは、個別のポート番号であってもできません。

RLMサーバーまたはISVサーバーのコピーが他に実行中でないかシステムをチェックして、プロセスを停止してください。その後、RLMサーバーを再起動します。

他に考えられる問題は、別のプログラムがポートを使用している場合です。「netstat」コマンドを使用して、別のプログラムがこのポートを使用していないか確認してください。

Hostsファイルにマシン名とIPアドレスが含まれていない場合は、ポート5054を使用しているプログラムがなくても、一部のシステムではこのエラーが出ます。HostsファイルにhostnameとIPアドレスを追加すると問題は解決します。

Vectorworksクライアント側のエラー

メッセージ：サーバーとの接続が切断されました！

再試行をクリックして通信の再接続を試みてください。

再接続ができなかった場合、以下を確認してください。

- ネットワークが正しく動作しているか確認してください。
- サーバーマシンの動作状態を確認してください。
- ライセンス管理ソフトウェアの動作状態を確認してください。

- ライセンス管理ソフトウェアを再起動すると、クライアントとの接続が切れます。接続を「再試行」するか、クライアントを再起動してください。
- 接続されているクライアントをライセンス管理ソフトウェア側からRemoveすると、クライアントの接続が切れます。管理者にお問い合わせください。

メッセージ：サーバーに接続できません。

- ネットワークが正しく動作しているか確認してください。
- サーバードマシンの動作状態を確認してください。
- ライセンス管理ソフトウェアの動作状態を確認してください。
- ログイン設定ダイアログボックスで、プライマリサーバーがユーザー名やホスト名になっている場合は、IPアドレスに変更してください。
- ログイン設定で、サーバードマシンのIPアドレスとポート番号が正しく設定されているかを確認してください。
- ログイン設定で、サーバーを自動検出にチェックが入っている場合はチェックを外し、サーバードマシンのIPアドレスを手入力してください。
- サーバードマシンのISVオプションで、IPアドレスに基づく制限が設定されていないかを確認してください。

メッセージ：次のモジュールの持ち出し有効期限を__日間に設定することはできません。

許容持ち出し期間が、要求した持ち出し期間より短く設定されています。ソフトウェアの持ち出し期間を短くしてください。

メッセージ：次のモジュールの持ち出しは無効です。

ユーザーが要求したモジュールを持ち出すことは許可されていません。許可されているモジュールのみを持ち出してください。

状態：Vectorworksプログラムが反応しない。

ソフトウェアを終了してください。サーバーのデバッグログに「IN (client exit)」行が追加され、ライセンスが自動的にサーバーに返却されます。

サーバーとクライアントの通信が一定時間ないと、ライセンスファイルが自動的にサーバーに返却されます。

.....
トラブルシューティング